



日本政務沿革論 自第八章
 至第十章
 一名日本文明論 附
 可号附录

千一

3494



414
A 4417



第八章 登革改正ノ方法(前章ノ續)

ノ所謂政權ノ一形式ハ一省衙ニ代理セラル
其義ノルヤ之レヲシテ一千八百六十八年誓詔ノ精神
ト併立セシムルヲ得ル可キ也是ヲ以テ我儕カ第七章
ニ論述セル政体改革ノ考察タル全ク其ノ主義ニ基ク
モノ也蓋シ我儕カ其ノ主義ノ誓詔ト符合セシト云フ
モノ敢テ誓詔中其ノ主義ヲ明言セリト言フニ非ラス
唯ニ誓詔ナルモノハ冥々ノ中ニ其ノ主義ヲ含有セシ
カ故ニ我儕ハ陰々ノ中其ノ主義ノアル處ヲ知ルニ過
キサレハ何トナレハ維新誓詔ノ創造者日本君主
フレテ憲ク政治ノ總權ヲ掌握セシメ乃チ其ノ政權ヲ
使用スル日本昔日ノ主義ト反對ナラシメシトスルノ
意ニアラハ其ノ人民ノ為ニ決行セラレシヲ欲ス

大正十一年四月
張侯爵郵寄贈

ノ事項ヲ明定シタル憲法ヲ頒布セラル可キハ理ノ
七見易キモノナルヲ以テ也然ルニ其ノ憲法ヲ頒布
セサルノミナラス唯ニ誓詔ニ掲載セル大綱ヲ發令シ
其誓詔ニ記載セサルノ細條ハ其下ニ委
決行セシメト爲レタリ尚且加フルニ我儕ノ己ニ論
述セシ如ク日本政府ノ大綱タルヤ輒速衷名論者ヲ採
擇スル処ノ主義ト符合シ(七十二葉ヲ見ル可シ)而シテ
維新誓詔ノ創造者カ廢棄セント欲セシモノハ唯ニ旧
國体中蠻野ノ風習ニ属クヌ可キ部分ヲ除去セントヒ
レニ過キサル也蓋シ旧法制ヲレテ悉ク廢除セント考
察セサリシモノ抑モ故アリ若レ夫レ之レヲレテ悉ク
廢除スルニ至ラレムアラハ島津三郎氏カ前見セシ
如ク若主ハ身躬ヲ干渉セサルノ行為ニ向テ其責ニ任

サルヲ得ス而シテ亦々副島氏ノ注目セシ如ク之レ
カ爲メニ人民ハ責任ナキ代理政府ノ随意ニ因リ耐忍
シ能ハサルノ禍害ヲ蒙ラントスルニ至ル可キヲ以テ
也蓋シ人民カ禍害ニ罹レノ一弊ニ至ツテハ立法上變
革ヲ行ヒ昔日人民カ憤懣ヲ竹槍ニ訴フルカ如キ蠻野
ノ術策ニ易エルニ縣會ニ因リ政府ノ非理ヲ訴フルノ
方法ヲ以テスルハ立トコロニ其弊ヲ防止スルニ至
ル可キハ言ヲ族々ス苟クモ縣會及ヒ樞密會議ノ法制
ヲ施設スルハ故木戸氏カ痛歎セラレタル中央集權
ニ過クルヨリ生ムル處ノ禍害ハ大ニ減輕セラル也
リ爲メニ東京大阪等中央政府ヨリ懸隔レタル地方
頗々其ノ困厄ヲ免カルニ至ル可キ也
若干ノ事項ニ付テハ政府主宰ノ推ヲ解キ之レヲ各縣

ニ分任スル所ハ今日ノ政体上ニ於テ政府ヲ擔任セシ
責任多クハ各縣ノ人民カ負荷スル處トナリ其他ノ事
項ニ於テハ民撰議院内閣元老院其責ニ任ス可ク斯
クノ如クニシテ天皇陛下ノ人民ニ對スルヤ唯ニ神聖
父及ヒ守護者タルノ名義ヲ以テシテ而シテ何等ノ事
ルモ其責ニ任スル勿ル可シ尚且加フルニ樞密會議ノ
法制ヲ設クルヨリ其ノ好結果ヲ生ス可キモ蓋シ僅
少ニアラサル也何トナレハ若シ夫レ各縣ノ工業ヲ勸
奨セントテ主眼トシ能ク華族版圖ヲ分置スル所ハ其
ノ版圖タルヤ必ラス人民ニ智識ヲ擴ノ事業ヲ勵マ
ス中心トナル可ク斯クノ如クニシテ本土四國九州三
島(蝦夷琉球ハ暫ク措キ)中不毛ニ屬クスルノ地ヲ變
テ悉ク神府ノ華園タラシムルニ至ル可キヲ以テ也蓋

シ此法制ニ随ヒ華族ニ分賦ス可キ地所ノ巨多ナルハ
我儕第十一章ニ於テ明示スル處アル可シ
世人必ラスヤ疑團ヲ抱クアラシ華族ハ以テ其ノ任ニ
當ル可ラスト蓋シ今日ノ經歷ヲ以テスル所ハ其疑團
ノ理ナキニアラサルハ固ヨリ我儕ノ知ル處ナリ然リ
ト虫モ我儕ノ見ヲ以テスル所ハ必ラスヤ疑團ノ外ニ
アル可シト信スル也何トナレハ華族社會モ亦均シ
ク是レ人民也若シ夫レ華族ヲシテ一國政治上ノ任ニ
堪ユル能ハスト為サハ他ノ人民モ亦均シク其任ニ
堪ヘスト見做サレテ得サルヲ以テ也果シテ斯クノ
如クナル所ハ政体改革ノ企望ハ全ク之レヲ放棄シ日
本ノ數年間一千八百七十一年ヲ以テ議定シタル政体
ノ下ニ生存マラルヲ満足セシハアル可ラサル也然リ

ト云モ我儕カ第四章ニ於テ事實ヲ証明セシ如ク一千八百七十一年ノ政体ヲ保續スルハ到底非理ニ属クスルモノニシテ若シ今日代理政府ノ執柄者等此政体ヲ保續セントスルハ乃チ霸府ヲ轉覆シ封建ヲ廢棄セシモノハ一國ノ政推ヲシテ正當ナル所有主ニ歸セシメ昔日ノ自由ヲ人民ニ與ヘントスルノ心思ニ非ラスレテ寧ロ維新ノ誓詔ニ背戾シ自ラ政推ヲ掌握セントスルノ意ニアリトノ疑團ヲ蒙ラサルヲ得ス而シテ天皇陛下ニ因リ其苛責ヲ受ケサルヲ得サル可キ也蓋シ日本帝國ノ人民何等ノ者モ誓詔ニ明示シタル條款ニ違ハハサルノミナラス陛下ト云モ之レニ背クナカラシトスルハ天皇陛下ノ真意ナルヲ以テ也今マ誓詔ノ

條款ニ因ルハ代理政府ノ執柄者ハカノテ士農工商ノ推利ヲ暢達セシメスニハアル可ラス而シテ華族ノ推利ニ至ツテハ一般ノ公益ヲ害セサル間ハカノテ國家ノ政務ニ於テ其地位ヲ持タシムルノ機會ヲ與ヘシム可シト云フニアリ今マ樞密會議ノ法制ヲ設ケ以テ華族ニ政務ニ干與セシムルノ機會ヲ與ヘシメントスルモノ蓋シ此旨趣ニ基ク也我儕ヲ以テスルハ華族ニ斯クノ如キ機會ヲ與ヘ此機ニ乘シテ漸次ニ為ストアラレムルニ非ラサレハ華族一社會タルモノ違ニ影跡ヲ失フニ至ル可ク然リ而シテ帝室ノ政体モ亦隨フテ衰微ニ至ル可キ也何トシレハ封建政体ノ廢棄ニ因リ帝室ノ推力ヲ増スアリト云モ貴族社會ノ存スルニ非ラサレハ帝室ノ政權永ク維持シ難キヲ以テ

也然リト虫モ貴族ナルモノ帝室ニ近接シテ重要ノ職
務ヲ行フニ非ラサレハ王家ノ補助タルヲ得ス顧フニ
華族ノ祖先ハ皆武勲ヲ以テ顯ハレタルカ故ニ我儕前
条陳述セル職任タルヲ殊ニ華族ノ任ニ堪ハタルモノ
ト考察スル也何トナレハ兵力ヲ以テ其國ヲ鎮撫セシ
者モ心カヲ勞レ以テ德望ヲ布キ推カヲ得ル者モ其實
ハ何等ノ差違アルナク即チ今日ノ華族々各縣ノ利益
ヲ進捗セシメテ主眼トシ躬テ各版圖ノ工業製作
ニ從事スルハ所謂其ノ職任ヲ尽スヲ得テ斯クノ如
クニシテ華族ハ全國ヲ遍フシテ智識繁昌富財ノ種子
ヲ播布スルノ端緒ヲ開キ甲鉄艦也、碎船器械也、鐵路也
己ニ日本カ有スル処ニ加フルニ他日貴重ナル工業製
造ヲ起スノ日ニ至ラハ則チ德望ト推カトヲ有スルニ

至ル可キハ言フ淡々サレハ也然リト虫モ華族ハ縣會
ノ助カヲ藉ルニ非ラサレハ其職任ヲ履行スル能ハス
是ヲ以テ縣會ノ議負タルモノハ其ノ德望ト勢カトニ
因リ華族ノ版圖内ニ於テ工業製作ヲ起スノ模範ニ倣
ヒ以テ人民ノ工業ヲ勸奨督勵セシムルヲ得可キ也
縣會ノ設立ヲ難スルモノ或ハ言ハレトス人民未ダ自
治ニ堪ユルノ智識ニ達ヒスト蓋シ此言タル人民カ獨
立自治ヲ願望スルニ臨ミ政府カ答フル処ノ常言ナリ
ト虫モ其ノ托言タル之レヲ容ル、可ラサルハ實際ノ
經歷ニ因ツテ明瞭タリ試ミニ問フ政府カ人民ノ私推
ニ干涉シテ督理スルアラハ時トシテハ有益タルモノ
有ル可キハ疑ヲ容レスト虫モ其ノ禍害ヲ生ス可キモ
却テ敦次ナルニ非ラサル可キヤ否ヤ今マ日本ニ於

ル工業製作所ナルモノ幾干アツテ人民ノ主宰ニ属ク
スル工作所中其ノ繁昌ヲ極ムルモノ果シテ幾干アル
ヤ否ヤ我儕之レニ答ヘテ言ハシ人氏ノ主宰ニ属クス
レモノ多クハ皆ナ其繁昌ヲ極メリト蓋シ人氏ノ主宰
ニ属クスルモノニシテ繁昌ニ至ラサルモノアレハ尽
ク皆ナ其ノ跡ヲ残サレハ也然レ氏大藏省ノ年報ヲ
閱スルニ政府ノ管理ニ属クスルモノニシテ幸ニ利益
ヲ起ス可キモノ果シテ幾干ナリトスルヤ若シ試ニ
利益ヲ起ス可キモノアリト為サハ蓋シ一二ニ止マル
可キ也是ニ於テ乎人皆自カラ損害ヲ受ク可キハ自由
ヲ興ヘテハハニ非ラホレハ決シテ富殷ヲ得ル能ハス
トノ主義タル不易ノ確言タルヲ見ル可シ蓋シ人皆ナ
一身ノ殷富ヲ得ルニ至ル可キモノハ或ハ一身ノ損害

トトル可キノ恐レアル自由ナルモノニ由レハ也試ニ
ニ心ヲ虚フレ昔日文明ヲ以テ宇内ニ誇稱シタルエセ
ニ羅馬ウエニスフロレンスフラトルス等ノ邦國ヲ見
ヨ此等ノ國ハ自由ナル府邑政治ノ体裁ヲ具ヘ中央政
府ノ干涉ヲ免カレシモノ也轉レテエビフトビーガン
タイン土耳其等文明ノ虚飾ヲ具フルモ遂ニ衰頹委靡
ニ再ヒ起ツ能ハサルノ邦國ヲ見レハ事々物々中央政
府ノ干涉セシ政畧ニ出テサレハナキ也是故ニ我儕ノ
歴見ヲ以テ太過勿カラレモノ我儕ハ恒ニ各人自由ノ
主義ヲ可認セスハアル可カラサル也
人或ハ疑團ヲ抱クアラン若シ夫レ斯クノ如ク政府カ
人氏ノ私権ニ関スルカ如キハ全ク主管ヲ解キ以テ各
縣ニ分任スルハ旧封建制度ノ如ク再ヒ貴族ノ威權

ヲ生スルニ至ラント是レ亦タ決シテ恐ル、ニ足ラサ
ル也蓋シ貴族ノ職分ノ如キハ時ノ便宜ニ隨ヒ之レヲ
制限ス可キヲ以テ也顧フニ封建貴族制度ノ由テ起ル
ヤ唯ニ或人擅制ノ下ニ當リ人民カ其ノ性命財産ヲ奉
ケテ主従ノ約ヲ誓ヒシヨリ生スル処ニシテ今マ我僑
ノ揚言セシ方法ニ隨ヒ決レテ此類ノ弊風ヲ現出セ
ハル也何トナレハ貴族ハ他ノ人民ノ有セサル特權ヲ
享有スルアリト雖モ然レモ人民ニ向ヒ直接ノ公推ヲ
有スルナク而シ人民ハ公義公道ニ基ケル政体ニ因リ
己ニ自由ヲ賦與セラレタルカ故ニ人民各自行ヒ得可
キノ限界内ニ於テカノテ同心結盟シ共有國ノ利益ヲ
謀ルノ外ニ於テ別ニ各縣ノ貴族ニ向ヒ心ヲ尽シ身ヲ
致スノ義務アル分ケレハ也是故ニ樞密會議ヲ施設ス

ルモ或ハ一家ノ戸主タリ不動産ノ所有者タリ政治ニ
干與スルヲ得可キ各縣ノ人民ハ唯ニ天皇陛下ヲ以テ
一國ノ最モ尊重ス可キモノト為シ(道傳及ヒ神武天皇
カ四海ヲ征服シタルノ推ニ因ルトス)之レニ裁決ノ推
ヲ與ヘ而シテ各自亦々ハ代議士ヲ以テ國家ノ政務ニ
干與スルヲ得テ彼ノ一千八百七十一年以前(封建政体
ノ廢棄前)ノ如キ狀況ヲ現出セサル可キハ明瞭タリ
斯クノ如キ法制ヲ以テスルハ華族ナルモノハ人民
ノ頭首タリ併セテ人民ノ一部タルノ地位ヲ具ヘ日本
人民ハ人心固結セル一社會トナリ而シテ公私ヲ問ハ
ズ各自ノ目的トスル処ハ彼我ノ本分ヲ尽シ其ノ責任
ヲ導守セルトスルニアツテ其ノ事ヲ行フヤ上下ノ別
ナク共ニ利害ヲ同フセントスルニ至ル可キ也夫レ華

士族平民ヲ問ハス苟クモ一縣内ニ居住シテ卓絶セル
モノハ縣會ノ議負亦ハ地方官吏トナリ而シテ華族
ナルモノ亦々其中ニアツテ特別ノ勢カヲ行フ可キ也
斯クノ如ニシテ華族ハ樞密會議ノ議負タリ併ヒテ一
縣ノ居住人タルカ故ニ君主ト人民トノ間ニ一ノ鎖鑰
タルニ至ル可シ蓋シ人民衆庶ヲシテ同心固結ナラシ
メントスル華族ニ非ラスレテ何人カ能ク此任ニ適ス
ルモノアラシヤ

封建時代ノ侯伯ヲレテ彼レカ如ク強盛ナラシメシモ
ノハ其侯伯自己ノ尊重ナルニ非ラスレテ寧ロ其官職
ニ附従スル權威ト人民衆庶カ一國ノ安全ヲ得ルハ唯
ニ侯伯ヲレテ施政ノ權ヲ掌握セシムルニアリト妄信
スルニ歸スル由モ今ヤ斯クノ如キ官職ノ威權ハ其ノ

影跡ヲ失ヒ人民亦々旧侯伯ノカヲ藉ラサルモ却テ其
國ヲシテ一層ノ富強ヲ加フルヲ得可シト警悟スルノ
日ニ方ツテハ貴族カ人民ニ向ツテ有スル処ノ權カモ
己ニ全ク消失シタルモノト言フ可キナリ

島津三郎副島種臣ニ氏ノ意見ヲ實施シ内閣諸負ノ失
錯ニ因リ天皇陛下及ヒ人民ヲシテ為メニ生レ来タレ
ル禍害ヲ受ルル勿カラレメント欲セリ内閣ヲシテ其
施行スル処ノ措置ニ向ヒ其責ニ任セシムルル勿クレ
ハアル可ラス然リト由モ我儕己ニ論述セシ如ク維新
誓詔ノ主義ニ基キタル現今ノ政体上ニアツテハ特ニ
行ハレ難キノ難事ナリト言フ可シ何トナレハ全國人
民ニ代ハリ其輿論ヲ吐露ス可キ民撰議院ノ議負ハ内
閣諸負ヲ擯行スルヲ以テ各自ノ本分ト誓ヒタル内閣

ノ臣僕タルカ如ク而レテ談人ヲ擯存スルハ人民ニ對
スルノ本分ニ背カスト雖モ其ノ内閣ニ對スル義務
ニ至ツテハ之レヲ欠カサルヲ得ザル也然リト雖モ民
撰議院ノ議負カ之レヲ行フニ憚ルアルモノ人民ハ亦
タ容易ニ之レヲ企圖スルヲ得ル也何トナレハ遺傳ニ
隨ヒ人民カ天皇陛下ニ對スルノ關係(蓋シ皇統連綿其
ノ爵位ヲ失ハサルモノ此遺傳ノ功德ニ因ル)タル一程
特別ノ狀況アレハ也實ニ其ノ遺傳ニ因ル皇朝ハ最モ
旧クシテ且ツ人民ニ秀絶ス蓋シ此國ヲ創造セシモ亦
其天祖也然リト雖モ亦タ天皇ハ民心ニ反スルヲ得ス
亦タ人民無クシテ政ヲ行フヲ得ス是故ニ昔日ノ遺傳
ニ基キ天皇ハ人民ニ向ヒ權利ヲ有セリト雖モ人民モ
亦タ均シク天皇ニ向ヒ權利ヲ有ス蓋シ帝室ノ統ヲ保

レ所以リ唯ニ人民ト連合スルニ過キサルヲ以テ也而
シテ天皇陛下カ其政權ヲ委任セシ有司ノ失錯怠慢罪
過等ニ因リ為ノニ天與ノ爵位ヲ維持スル能ハサルカ
如キアテハ人民ハ之レヲ愁訴スルノ權利ヲ有ス可キ
也是故ニ内國憲法ノ綱目ニ基キ我儕カ考案ヲ作為レ
タル内閣ノ責任ト縣會ニ於テ政府ニ不信ヲ抱クノ決
議トニ關スル條款ハ其秩序ヲ失ハサルヲ信スル也蓋
シ縣會ニ於テ政府ニ不信ヲ抱クノ發議ヲ決スルハ
即チ人民衆庶カ之レヲ發議セリト認メラル可キヲ以
テ也而シテ尚且ツ斯クノ如キ決議ノ時ニ臨ミ代議人
ノ舉動タル制御ス可テナルモノアルモ天皇陛下ニ對
スルヤ寸毛モ忠順ナル臣下タルノ敬礼ヲ欠ク下ヲ得
ス蓋シ代議士ノ行為ヲシテ帝室ノ命令ニ背戾スル勿

カラシムルモノハ議負自己ノ過激ニ涉ラントテ制止
レ併セテ王位ニアルモノヲ保護セシカ爲メヨリ外ナ
ラサル也

縣會ニ因リ政府ニ不信ヲ抱クノ發議ヲ決スルニ方リ
其ノ發議ヲ要ス可キ各人互ニ相懸隔スル中ハ會議案
ヲ決スルノ制ヲ止メ其旨趣書ヲ印行ニ付シテ各地ノ
議ヲ決スルヲ要ス蓋シ此法ヲ以テ前方ニ比スレハ稍
困難ノ弊ナキニ非ラスト雖モ却テ其利益トナルモノ
アルモ亦タ知ル可ラサル也何トナレハ政府ニ向ヒ不
信ヲ抱クノ發議ヲ決スルニ方ツテヤ縣會ニ於テハ彼
ノ歐州議事院ニ於テ内閣ニ抗拒スルノ意見ヲ決スル
カ如ク瑣少ノ事項ニ至ル迄憲ク政体ヲ變更セントテ
欲スルニ非ラス唯ニ人民カ耐忍シ能ハサル究竟ノ事

項ヲ廢止セントスルニ過キサルヲ以テ也而シテ發議
ノ決定ヲ得ル愈困難ナル中ハ其措置モ亦タ誤謬ナキ
ハ益確實ナルヲ得可レ

夫レ然リ政府ニ向ヒ不信ヲ抱クノ發議ヲ決スルヤ輕
忽ニ涉ル可ラサルハ回ヨリ言ヲ誤タスト雖モ焦眉燒
頭ノ急迫ナルニ臨ミ人民カ其發議ヲ起ス中ニ方ツテ
ヤ之レヲシテ政府ノ爲メニ輕慢セラレサルカ如キノ
方法勿クシハアル可ラス而シテ政府ヲシテ速カニ之
レヲ採納セシメントセリ或ハ憲法上ニ於テ之レヲ明
定スル乎否ラサレハ愁訴ノ採納ヲ強請ス可キノ自由
ヲ人民ニ附與セスハアル可ラス然リト雖モ我儕ハ
寧ロ人民ニ強請ノ自由ヲ附與スルヲ欲スル也其故何
ソヤ蓋シ憲法上ノ明証ナルモノ其實際ニ就テ論スレ

ハ更ラニ效ナキハ人皆知ル所ナレハ也見ヨ宇内万国
何レノ國ナルモ未タ憲法ヲ信任スルノ多キ博國ノ如
キヲ見ス亦憲法ヲ信任スルノ少ナキ未タ英國ノ比ヲ
見ス(而シテ其結果ノ如何ハ我儕前章ニ於テ之レヲ論
述シタリキ)是ヲ以テ英國ノ人民ハ政治上ノ自由ニ於
テ一步ヲ進ム毎ニ其ノ法制ヲ明定スト雖モ然レモ敢
テ此法章ニ就キ格別ノ信任ヲ置クナレシ彼ノ有者ナ
ルマカ權利大詔ノ如キニ於ルヌラ人民ハ之レヲ以テ治者
被治者間ノ一契約ト爲シ而シテ此契約ハ治者ノ都合
ニ因リ破棄セラル可キモノト見做シ敢テ之レヲ信認
スルナキ也國王即位ノ時ニ方ツヤ恒ニ國王ヲシテ之
レヲ誓ハシメ以テ之レヲ導奉セシメシトテ憲々ヲサ
ルモノ職トシテ之レニ由ル可シヨルコトク氏ノ計

算ニ因レリ英國人民ノ國王ニ誓ハシメシモノ三十二
回ヨリ少カラスト斯クノ如クニシテ人民ハ恒ニ其
枉曲ヲ伸フルヲ得可キヲ感銘セリ曾テ下院ニ於テ特
權、權利ノ請求ヲ揚言セシリ勝テ教ヲ可ラサリシト雖
モ尚ホリキヤルトト王二世「ヘンリー」王六世ノ昔日ニ方
ツテハ下院ヲシテ國事ニ干與セシムルヲ擯付シ下院
ノ請求スルアルモ決シテ之レヲ肯ンセサリキ然リ而
シテ此時ニ當ツテモ己ニ議院ノ請求ニ抗拒スルヲ久
シキヲ保ツ能ハサリシ也蓋シ之レニ抗拒スルノ久シ
キニ至ルアルハ是レ英國國王ヲシテ自月セシムル所以
ナレハ也今マ日本天皇陛下カ縣會ニ因リ政府ニ向ヒ
不信ヲ抱ケル登議ヲ見テ之レニ耳ヲ假サ、ルカ如キ
アラハ亦タ其轍ヲ履ムナシトス可ラサル也見ヨ全國

出納正算表ノ如キ之レヲ民撰議院、元老院ノ推内ニ付
セシメサルヲ得サルニアラスヤ若シ夫レ天皇陛下カ
容々字トシテ維新ノ誓詔ヲ履行スルヲ志失スルカ如
キアラハ陛下カ再ヒ人民ノ願望ヲ容ル、ニ至ル迄民
撰議院ハ天皇陛下ト同心協力スルヲ肯レセサルニ至
ル可キハ蓋シ其理ナシトス可ラサル也

我儕今テ民撰議院及ヒ縣會議員ノ撰挙ニ付論及スル
処アラシトス蓋シ其議員ヲ撰挙スルニ方リ人民ヲシ
テ直チニ之レヲ擇ハシメス代理撰挙人ヲ用ユレトス
ルモノ抑モ故アリ顧フニ日本人民カ國主ヲ仰キ唯命
惟從フハ其ノ慣習ニシテ尚將來ト雖モ其慣行ヲ脱ス
ルナク苟クモ事アルハ必ラス長上ノ人ヲ仰視シテ
其命ニ從ハサルハ勿カル可シ然リ而シテ今ヤ封建ノ

制度已ニ廢セラシテ侯伯亦々各縣ニ居住セサルカ故ニ
自カラ其ノ撰擇ハ或ハ學識秀絶ナルニ因リ恒ニ一郷
黨ノ師範ト仰視セララルモノニ歸ス可キハ理勢ノ當サ
ニ然ル可キ処ニシテ縣會民撰議院議員ノ撰挙ニ臨ミ
人民カ撰ランテ以テ代理撰挙人ト為ス可キハ即チ此
等ノ人ニ歸ス可キ也而シテ其ノ撰挙セラル可キ代理
撰挙人ノ負教タル頗ル巨多ナルカ故ニ顧フニ民撰議
院縣會ノ議員ニ撰任セラル可キモノ多クハ代理撰挙
人中ニ含有ス可シ然リ而シテ代理撰挙人中ニアツテ
其縣會民撰議院ニ陞ル可キモノヲ見ルハ其議員ニ
充ツ可キ徳識秀絶ナルハ自ラ撰擇シ易ク彼ノ人民衆
庶ニ秀絶スルモノヲ撰ハシヨリ寧ロ一層ノ精
密ヲ加フルニ至ル可シ蓋シ此等ノ便益アルニ及シ當

初ノ撰挙ニ當ツテハ其ノ任ニ當ルモノ多クハ貴族ニ過ク可シト雖モ我儕ヲ以テ之レヲ見レハ是レ亦ク敢テ何等ノ妨ケナシト信スル也何トナレハ我儕己ニ第四章ニ於テ論述セシ如ク遂ニハ智識俊秀ノ黨ヲ挙クルニ傾向ス可キヲ以テ也況ンヤ人民ノ冀望ハ第四章ニ前見セシ事情ヲ以テ至達シ己ニ人民カ漸次ニ識量ヲ進ムルヲ豫察シ第七章ノ結末ニ記述セル方法ヲ設クルノ日ニ方ツテヤ人民ヲ誘導スル貴族ニ非ラスニテ何人カ能ク此任ニ適スルモノアランヤ然リ而シテ人民直撰(代理撰挙人ヲ用エルニ反ス)ノ方法タルヤ決シテ此クノ如ク成跡ヲ生セサルハ敢テ我儕カ喋々ヲ要セサル也

撰挙人ヲシテ養績ノ別ナク少ナクモ一人ノ男子ヲ育

セシムルヲ須要トスルモノ亦ク故ナキニ推ラサル也蓋シ一國ノ富强多クハ人民中成年学徒ノ多寡ニ関スルヲ以テ也見ヨ成年男子タルモノハ恰モ貨物ヲ産出ス可キ種子ノ如ク一身ヲ成熟教育シテ其成年ニ達セシムルニ欠ク可カラサルノ學識ヲ具ハ随ツテ人民ニ向ヒ之レヲ擴充スルヲ得可キ一貨本タルニ非ラスヤ世人或ハ人口ノ減少ヲ以テ生産ノ泉源ヲ減少スルト爲シ大ニ一國ノ繁榮ヲ害スルト認定シ或ハ苟クモ人口ノ繁殖ヲ進メントスルノ事アレハ大ニ之レヲ賛成スル所以ノモノ亦ク知ル可キ也彼ノ「ゼーウス」氏カ懐昔ヲ尊重ヒシモ亦ク此ノ至眼ニ出テスレテ何ソヤ古昔羅馬ニ於テ結婚法ヲ獎勵スルノ法令ヲ出セシモノ勝テ教ヲ可ラサル也顧フニ人民カ其報酬ヲ享有スル

モノ唯ニ其ノ有スル処ノ兒子ノ多寡ニ関スルノミト
云モ敢テ不可ナル勿ル可シ
難者或ハ言ハントス我儕カ男子ヲ有スルヲ以テ生産
富殖ノ大源因ト為シ併ヒテ撰挙人タルニ次ク可ラサ
ルノ制規ナリト為スモノ是レ外國通商ヲ後ニシ農工
製作ヲ盛ニセントノ偏頗心ヨリ出ルニアル可シ然
レ氏決シテ斯クノ如キ意アルニ非ラサル也我儕ノ考
察スル処ノモノ他ナレ夫レ日本ニ於テ貿易ス可キノ
貨物ナキハ何タル外國通商ヲ行フ能ハス亦ク貨物
ノ地下ヨリ産出スルナキハ貿易ス可キ何タルモノ
無キヤ明瞭タルカ故ニ今マ日本内地ノ財源ヲ發生セ
サルノ前ニ於テ天皇陛下カ外國通商ヲ勸奨セラル
ニ過クルキハ是レ即チ海外通商ノ利ヲ射ント欲シテ

却テ巨害ヲ招カルニ異ナラスト言フニ過キサル也
蓋シ内國ノ生産ヲ此レ勉メス唯ニ外商ヲ專ニトスル
ハ人民ノ財本ヲシテ一國ノ財源ヲ繁殖スルニ使用
セシムルナク遂ニ通商上欠ク可ラサルノ貨物ハ之レ
ヲ何レノ処ニ求メントスルヲ知ラサルニ至レハ也如
之日本ニ於テ内地ノ工業ヲ起スノ要用ナルハ蓋シ外
國貿易ノ比ニアラサル也見ヨ古今万国内地ノ工業ヲ
勸奨スルナク而シテ永ク富強ヲ存スルノ國アルヲ見
サルモ唯ニ内國ノ利源ヲ發生スルハ外國貿易ヲ盛
大ニセス而シテ能ク其ノ富強ヲ存スルノ國比々見ル
可キニ非ラスヤ
難者或ハ亦タ言ハントス我儕カ記述セル撰挙方法ニ
随ハハ幸ニ卓絶俊秀ノ士アリ頗ル其任ニ適スルモ家

極メテ貧ニ為ノニ代理撰舉人亦タ撰舉人ニ撰ハル可
キ制規ヲ履ム能ハサルカ故ニ全ク拒絶セラル、モノ
アルニ至ラント然リト虽モ實際上ニ就テ考フレハ是
レ亦ク敢テ憂トスルニ足ラサル也往日佛國ニ於テハ
巨多ノ地租ヲ納ムルニ非ラサレハ何人モ撰舉人タル
ヲ得ス亦タ代議士ト為リ議席ニ坐スルヲ得サルヲ以
テ制規ト為レ斯クノ如キカ故ニ一時ハ秀俊ノ士モ多
クハ其代議士タルヲ得ス實ニ施政上ヨリ擯斥セラレ
タリト虽モ該人ノ識量世人ノ為メニ知ラル、ニ隨ヒ
人民ハ巨多ノ財産ヲ該人ノ名義ニ書替一以テ其任ニ
當ラシムルヲ得タリキ今マ日本ニ於ルモ亦タ然リ若
シ徳識俊秀能ク其任ニ當ルモ我儕カ記述セル撰舉方
法ノ制規ヲ履ム能ハサルアラハ彼ノ佛國ノ如ク遂ニ

其撰ニ當ルヲ得ル可キ也

我儕ノ撰舉方法ニ因レハ代理撰舉人タルモノハ或ハ
守旧ノ僻見ヲ墨守シ文明ノ活眼ノ開カサル老年社會
中ヨリモ撰擇セラル可キカ如ク然リト虽モ一家
ノ戸主ニ賦與スルニ其兒子ヲ代理タラシムルノ權ヲ
以テスルカ故ニ是レ亦ク敢テ恐ル、ニ足ラスト信ス
ル也蓋シ日本ニ於テハ其戸主已ニ老衰スルハ家事
ノ主宰ヲ兒子ニ讓與シ自ラ陰居ト稱シ身ヲ塵外ニ置
キ其餘年ヲ樂ムハ一國ノ風習也而シテ代理撰舉人ノ
職務ヲ行ハシム可キモノハ其兒子中身心共ニ強壯ナ
ルモノニ歸ス可レ且ツ夫レ我儕カ記述セル撰舉方法
ニ隨ヒ一家ニ代ハリ撰舉人タル可キモノヲ撰フカ如
キ重要ノ事アルニ方ツテハハラス一家蕃族總會議ノ

レヲ論スル所ハ該院ノ議負ハ今日日本帝國ニ於テ日
ニ變遷極マリナキ事物ニ注目スル多クシテ泰西各國
ノ如ク敢テ變革スルヲ要セサル永續ノ政体法制ニ從
事スル尠ナレトス是故ニ元老院ノ討議ニ係ル可キ事
項ヲシテ或ハ實際ノ經歷ナクシテ其撰ニ當リ亦タハ
英國ニ於ル上院議官ノ如ク終身官タル議負ノ評決ニ
付セシムル所ハ必ラスヤ謬見ニ厲クスルモノナキヲ
得ス我儕カ考出スル所ノ方法ニ於テ元老議官ヲシテ
各法制區ヨリ撰擇セシメ且ツ在職期限ヲ短ニシ其意
見ヲシテ地方ノ民情ヲ酌マレムルノミナラス時勢ノ
變動ニ隨ヒ其志向ヲ更改セシメントスルモノ蓋シ爰
ニ見ル所アレハ也然リ而シテ其ノ之レヲ撰擇スルニ
當リ議負タルニ背カサレ識量ノ士ヲ擧クルハ特ニ政

府ノ責ニ歸ス可シ

各縣ノ分界ニ拘ハラス法制區ヲ設ケテ人民合一ニス
ル所ハ各縣ノ人民ヲ同心團結シ其利害得失ヲ同フセ
シムルカ故ニ我儕已ニ論述セシ如ク昔日ノ弊害ヲ生
スルナク却テ撰舉人ヲシテ旧習ニ從ヒ事務ヲ決行ス
ルノ便宜ヲ與フ可キ也

我儕カ考業中内閣ノ一負タル大臣タルモノ人民ノ願
望ニ因リ其頭職ヲ黜ケラル可キノ條款ヲ見ハ説者或
ニ改革ニ過キルト評下ス可キハ固ヨリ疑ヲ容レサル
所ナリ蓋シ大臣ニ任セラル可キハ獨リ皇族公卿旧領
主ニ限ル可キハ未タ日本ノ國法ニシテ而シテ我儕カ
揚言スル所ノ新考案ニ因ル所ハ到底大臣ノ頭職ヲシ
テ士農工商ノ別ナク撰任セラルハ得セシムルニ至

レハ也然リト雖ニ我倚ノ見ヲ以テスルハ士族平民
ノ別ナク大臣ニ任セシムルヲ得ルハ却テ利益ヲ生
スルニ至ラントヲ信スル也蓋シ今日ノ時態ヲ以テ之
レヲ見ルハ最賢最明ノ士ヲ擧ケテ朝ニ立タシメサ
ルヲ得サルハ固ヨリ言ヲ族タサル処ニシテ而シテ我
倚カ考出スル処ノ方法ヲ以テスルハ斯クノ如キ賢
明ノ士ヲ擧ケテ朝ニ立タシムルニ至ル可キハ疑ヲ容
ル可ラサルヲ以テ也顧フニ一國ノ政務ハ同例規ニ照
準シテ恒ニ之レヲ所分スルノ旨日ニアツテハ其君主
ノ為シ能ハサルモノハ臣下代ワテ之レヲ行ヒシカ故
ニ門閥ヲ以テ頭職ニ任スル敢テ妨ケ勿カリシト雖モ
一國ノ困難日ニ内閣諸員ノ前ニ累積シ之レヲ所スル
ニ於テハ各自ノ能力ヲ用エサルヲ得サルノ今日ニ方

ツテヤ苟クモ一國ノ要路ニ立ツモノハ必ラス才能氣
カ及ヒ天稟ノ秀俊ヲ具フルモノタラスレハアル可ラ
ス而シテ何人ニ限ラス天稟ノ秀才ヲ抱クモノアルハ
ハ貴族ヲレテ官ヲ私シ秀絶ノ士ト共ニ國家ノ重キニ
任スル等ノ術數ヲ行ハシムルナク其機ニ乘シ秀絶ノ
士ヲレテ政柄ヲ掌握セシム可キ也蓋シ天稟ノ秀才ナ
ルモノハ假令其身卑賤ナリト雖モ其徳ヲ有スルモノ
ヲシテ門閥ニ因リ其位ヲ高フセルモノト同等ノ地位
（却テ上席セシムルトナシトス可ラサルモ）ヲ占有セシ
ム可キ天地自然ノ格威ヲ與フルノミナラス尚且ツ帝
王ノ祖先ヨリ継受シ來タレル權威ト雖モ天稟秀絶ノ
士ハ尽ク之レヲ帝王ニ附與スルヲ得可キヲ以テ也且
夫レ斯クノ如キ秀絶ノ士ヲ擧ケテ副官ノ地位ニ置キ

無智無識ナル大臣ヲ補翼スルアラシメントスルモ亦
夕策ノ得タルモノニ非ラス蓋シ斯クノ如キ術策タル
ヤ乍チ世人ノ為ノ見破セラルル処トナリ遂ニ天皇陛
下ヨリ拜命シタル高官ヲ辱カシメ世上ノ不信ヲ来タ
スノミナラス此等ノ術数ハ多ク實際ニ益ナキモノヲ
ルヲ以テ也凡ソ人タルモノハ一ノ措置ヲ始メ之レヲ
行フノ方法如何ヲ陳述シ得ルモ之レヲ最良ニ遂ケ得
タルハ將タ何等ノ方法ニ由ツテ着手シ来タレルヤニ
至ツテハ躬自ラニ於テモ尚ホ解明ニ苦ハアルハ蓋シ
其例ニ乏カラサル也今々其ノ然ル所以ヲ知ラント欲
セハ世人自カラ人心ノ發達ハ驚クニ足ルモノアツテ
世ノ論者々如何レテ斯クノ如キ事業ヲ再行スルヲ得
可キヤト數百年來之レヲ探討シ来タレル今日ニ於ル

スラ尚且ツ再ヒ發生スルヲ怠タラサル所以ヲ顧ミ来
タラハ自カラ領解シ得ル処アル可シ見ヨヤシザル
那波倫翁セシジス、カンヘートル、ゼ、ゲレ、ト、番國王フ
レテリツク也豊大閣、徳川家康也各自ノ所業ヲシテ再
ヒ行ハシム可キ方法ヲ世人ニ教示スルヲ得可キヤ否
ヤ、顧フニ決シテ能ハサル可シ蓋シ上天是等ノ人々ニ
賦興スルニ特別ナル能力ヲ以テシ其秘密ヲシテ他人
ニ漏ラスト勿カラシメント為シタルヲ以テ也往昔伊
太利國ノ画工名師カ其秘傳ノ免許ヲ買求メント請ヒ
タル人ニ返答シタルノ文アリ其語辞單簡ニシテ修飾
ナシト虽モ亦タ以テ前条ノ旨趣ヲ解スルニ足ル可シ
画師ヲヘールノ答言ニ曰ク此秘術ナルモノハ我身自
己ニ於ルスヲ辨解説明スル能ハス況シヤ寸毛モ決シ

テ賣却スルヲ得ル能ハサルノ思想裡ニ埋伏セリ然
リ而シテ爾後何人モ其ノ思想ノアル処ヲ學ハス亦
學ハント欲セシト勿カリシト也

第九章 肇革改正ノ方法 (前章ノ續キ)

或者ノ主唱スル如ク日本人眞ニ開進ヲ欲セサル
ラハ我儕カ揚言セシ推時改革ノ考案ハ之ヲ回復ス
可ラサルノ一大弊害ヲ釀成スルニ至ル可シ蓋シ進歩
上ニ於テ今日ノ現況ヨリ却テ善カラサルノ情態ヲ現
出セシメントスルニ傾向スルヲ以テ也我儕ハ人民各
自ノ自由ヲ伸張シ中央政府ノ推カラ減縮セシト揚
言セシモノハ實ニ人民カ天稟開進ヲ欲セサルアラハ
其自由ヲ享有セシムル愈々ニ隨ヒ其自由ニ止マル
モ亦タ益確固ナル可キカ故也今マ人民ノ思想ハ守旧
ニシテ而シテ開進ノ状態ニ居ラシメラルト為サレ
其人氏ヲレテ變換セシメントスレハ政府カ人民ノ私
推ニ干渉スルヤ尚ホ今日ヨリモ甚タシキモノアラサ

ルヲ得サル可レ蓋シ人民カ開進ニ進ムノ際ニ於テ政
府カ人民ノ私権ニ干涉スルアラハ是レ其ノ進歩ヲ退
却セシムルノ故ヲ以テ擯付ス可キモ其ノ人民守旧ナ
ルニ干涉スルハ之レ人民ノ旧染ヲ變換セシムルカ
為メニ非ラサルハ無キ也是故ニ日本人人民天稟守旧ニ
シテ要路ノ士人開進黨タリトスルハ政府カ人民ノ
開進ニ趣クノ際ニ干涉スルハ固ヨリ無用ニ屬クセサ
ルヲ得スト虽一匹彼ノ守旧ナルカ為メニ干涉スルカ
如キハ日本今日ノ現況ニアツテハ最モ尤ク可ラサル
ノ刺戟カタラサルハナキ也

然リト虽モ我儕ハ未タ日本人カ開進ヲ拒ムノ斯クノ
如クナルヲ見サル也蓋シ日本人ハ怠惰ニレテ日以テ
夜ニ繼クノ活世界ニ應セスト虽モ或ハ人類天性固有

ノ癖質ニ因リ或ハ寒暖氣候ノ然ラレムル等之レヲ救
治ス可ラサルノ原因アルニ非ラス唯ニ慣行ノ風習ヨ
リ生シ来タルカ故ニ苟クモ其ノ風習ヲ變ヘシムルハ
ハ決シテ改更セサルノ理ナキ也若シ試ミニ日本人民
ヲシテ真ニ性来守旧ノ癖質アラシメハ我儕カ其事跡
ヲ歴見シ来タル如ク其方向ヲ變スルノ理由アルナク
亦タ七百紀ニ於テ日本ノ始メテ清國ト交際ヲ行フヤ
彼ノ長ヲ取リ我カ短ヲ補フニ過キサラシメハ必ラス
ヤ彼ノ法制ヲ模寫スルヲ以テ足レリトセスレハアル
可カラス然リ而シテ日本ハ之レヲ以テ満足セサリレ
ハ我儕ノ知ル処ナリ顧フニ當時日本ノ状況タルヤ事
ノ守旧開進タルニ論ナク同時勢ニ於テ各國ニ現出セ
シ処ト異ナラサル也今暫ラク一千六百年代ノ季世ニ

於ル日本ニ溯リ考フレハ日本ノ国旗ハラベロースノ
海峡ヨリベシカル湾ナリフーテヨウホルモサヒ
ーリバインスミヤーマニ至ル迄到處遍々レテ龍
ヘサルナク實ニ當時文明國タルヲ徴ス可キモノアル
ヲ見ル也然ルニ一千六百年代後突爾ニ跡ヲ此等ノ地
方ニ絶テ今日ノ清國ニ於ル如ク殆ト三百年ノ間一國
ニ孤立シテ草ヲ他邦ニ起スヲ許サズ遂ニ人民ヲシテ
盲為ノ氣象ヲ失ハシメタリキ譬ヘハ農務家ハ大ニ米
穀ヲ作り以テ君主及ヒ自己ノ需用ニ供セシハアル
可ラサルヲ知ル是故ニ米穀多ク産出ス然リト雖モ歐
州同代ノ人民カ焦慮セシ如ク其收穫ヲ隔遠ノ地ニ運
搬レ以テ巨利ヲ得シトヲ考慮スルナレズクノ如キカ
故ニ側ニ人アリ恒年ヨリ多クヲ産出シ前日ト異ナリ

タル方法ニ於テ之レヲ販賣ス可シト指示スルニ非ラ
サレハ果シテ斯クノ如ク為ス可キノ道理アルヲ曉ル
能ハサル也製造家ノ如キモ亦々概シテ之レト異ナラ
サル也見ヨ製造家ハ外國ノ需用如何ヲ知ルナク或ハ
非常ノ需用ニ應シテ競手ノ工業ヲ挫カントス可キノ
ク亦タ一事業ヲ海外ニ企テ其競手ヲ挫倒レテ利ヲ網
ス可キ通信運輸ノ便ナレ是ヲ以テ生産者ノ事業ハ至
狭ナル区域内ニ限縮セラレ遂ニ各自一事業ノミヲ
限ルニ至レリ夫レ斯クノ如ク其職業ノ數ニ應シテ之
レヲ行フノ人ヲ要スルカ故ニ人民各自預メ務ハ可キ
生涯ノ職業ヲ育セシナリ而シテ人民獨リ其職業ヲ限
レルヲミナラス地方モ亦々其産物ヲ限ルニ至レリ假
令ハ甲ノ村邑ハ青銅ヲ産シ乙ハ磁器ヲ生シ丙ハ絹ヲ

産シ下ハ漆ヲ生スルカ如シ且ツ地方ノ領主ハ農工産物ノミナラス其製造人ニ至ル迄版圖外ニ出ルヲ妨止スルノ権ヲ有シテ屢之レヲ施行シ全國人民ハ尽ク外邦人ト交際スルヲ許サス甚クシキハ一國孤立ノ法制ヲシテ嚴密ニ行ハシメシカ爲メ造船法ヲ改革シカメテ遠洋ノ航海ニ適セザラレメタリ而レテ獨逸人ノ長寄ニ來船スルモノヲ除クノ外總テ日本ニ揚陸スルモノハ内地人ト自由ニ交際スルヲ許サレサルノミナラス併セテ斬刑ニ所スルアラントス斯クノ如キ酷律ハ清國ニ於ケルスラ未曾テ設ケサル処ナリキ然リト雖モ日本人民ハ漸次ニ斯クノ如キ慣法ニ感染シ遂ニ其風習ヲ脱却セシメントスル頗ル困難ナルニ至レリ蓋シ恒ニ尋常ノ職業ヲ勉ムルハ敢テ勞苦スルナク一身

ノ需用ヲ達スルヲ得可キカ故ニ曾テ其分ニ安ンジ事ヲ起サントスルナキヲ以テ也斯クノ如クニシテ人民カ日常欠可ラサル事物ノ外ハ何等ノ事ナルモ措テ顧リミサルト人民カ天孫ニ因リ管理サレタル神國ニ居住スルトノ信用ヲシテ心裡ニ浸潤セシメシトニ因リ遂ニ其他ノ事業ヲ行フハ其ノ福祉ヲ賜與セラレタル天帝ヲ畏レサルノ所爲ナリト妄信セシムルニ至レリ時トシテハ國主ノ癖好ニ因リ驕奢ノエヲ起スアリ假令ハ新タニ宮殿ヲ築キ特別ノ賓客ヲ接待シ或ハ貴紳ノ婚嫁等ニ方ツテハ特別ノ工作ヲ要スルアリト雖モ唯ニ尋常ヨリ稍多クノ勞カト練磨トヲ用エルニ過キサリキ顧フニ繁劇ノ高業アルヲナキ也而シテ偶ニ一業一科ニ練熟シ不時ノ需用ニ應シテ利益ヲ得ルモノア

ルモ是レ唯ニ其製作ニ於テ非常ノ奇巧ト練熟トヲ示
シ以テ功器ヲ買ハントノ各利心ヲ抱ケルモノニ過キ
ナリ也是故ニ人民ハ漸次ニ事業ヲ制スルニ非ラス
シテ恰モ事業ニ制セラルノ一器械トナリ為メニ獨
立ノ氣象ヲ消失シ而シテ慣習ノ然ラシムル処各人尙
明進歩ノ思念ヲ變シテ守田ノ痼疾ト為シ遂ニ今日ノ
人民ヲシテ同進ノ氣象(我儕)此氣象ヲ以テ日本人類
ノ性質ト信スルモ)ヲ欠カシムルニ至レル也斯クノ如
キカ故ニ農作作園、貨物器械等ノ製造、細商ノ如キ事業
ニ於テハ人民頗ル之レニ適ヒリト雖モ或ハ器械、獸類
ノカヲ藉ルノ農業ニ於ル、日ニ発眼ヲ要スルノ製造ニ
於ル或ハ巨大ノ通高等ニ至ツテハ決シテ練熟ヲ得ル
能ハサル也然リト雖モ我儕ハ日本人ノ作園、製造等ニ

熟達セルヲ見テ亦ク水火ヲ使用スルノ農業等ニ至ツ
テモ速クニ進歩ス可キノ徴候ト信スル也
然リト雖モ日本人カ斯ク得來ニ於テ進歩ス可キノ徴
候アルモ今日ノ真域如何ニ注目セスレハアル可ラス
而シテ亦ク歐米ノ學術タル清國ノ學術ノ如ク容易ニ
得ラル可キモノニ非ラス其學術ヲ將テ之レヲ工藝製
造ニ實施スルモ彼レカ如ク容易ナルニ非ラサルヲ知
ラスレハアル可ラス清國ノ諸藝學及ヒ專門學ナルモ
ノハ唯ニ各科ヲ記述スルノ書籍タルニ過キナルモ歐
米ニ於テハ其各科ヲ記述スルノ書ヲ其法理主義
ヲ解明シタルモノ也而シテ清國ニ於テハ學科ナルモ
ノハ不易ナル點竈術ノ比喻ニシテ能ク教學上ノ規本
ヲ推スルハ百科ノ問題ニ之レヲ解説スルヲ得可ク是

故ニ苟クモ勉強カヲ有シ尋常ノ練磨記想ヲ具フルモ
ノニシテ其現年綱目ヲ知ルキハ恒ニ之レヲ以テ百科
ヲ説明シ得ルノ模範ト為スモ歐米ニ至ツテハ決シテ
然ラス學科ナルモノハ化学、窮理学、本草学、政治学、数学、
法律学、器械学、天文学、建築学、技術学、等数十科アリ是故
ニ其學術ハ一二ノ學士ニ因リ撰著セラレシ教卷ノ書
藉ニ因リ會得セラレ可キニ非ラスレテ其書數萬卷之
レヲ解得スル頗ル困難タラサルヲ得ス是故ニ其ノ考
索獵涉スル処鴻濶ナルカ故ニ其學科ヲ數名ニ分割レ
テ各自一科ヲ受持テ終身之レニ從事スルニ非ラサレ
ハ其深奥ヲ極ムル能ハサラレトス而シテ歐米ノ法理
主義ナルモノ恒ニ變更ス可クテ頗ル熟練セル學士
ト虽モ之レヲ以テ不易ノ規範ト信スルナシ然ルカ故

ニ學者タルモノハ唯ニ記憶カヲ有スルノミナラス先
哲傳フル処ノ規範ヲ變更改正ス可キ英敏思想カヲ具
ヘスニハアル可カラス是ヲ以テ清國ニ於テハ考索獵
涉ノ區域限リアツテ擴暢スルナシト虽モ歐米ニ至ツ
テハ恒ニ擴暢シ底止スル処ヲ知ラサル也蓋シ歐米ニ
アツテハ一業僅カニ終レハ亦シ他事ヲ顧ミサルヲ得
サレハ也夫レ然リ歐米人ノ今日ニ學ヲ處ノモノハ今
日ノ模範ニシテ其模範タルヤ必ラス恒ニ變更改正セ
ラル可キモノトス是ヲ以テ歐米人ノ學ヲ修ムルヤ今
日ヨリ一層學術ノ高点ニ達シ先哲傳フル処ノ法理主
義ヲ改正翼賛シ益其善美ヲ尽サシメント雖勉强々更
テニ止ムノ斯キ也轉シテ清國ヲ觀リシレハ伏羲氏
ノ時以來學術ハ更ラニ變換スルナキモ歐米ニ至ツテ

ハ「ローケルベークン」ガルレヲ「コペルニキス」ニ「ローン」
「ヒーゼン」氏等其他軌迹文具ノ開基者世ヲ去リシ以來
僅々教世ニシテ其學術ノ變換改正セシハ實ニ二十餘
回ニ出ルトス今テマ試ニ伏羲氏ヲ當世ニ再生セシム
ルト為サン彼レ必ラスヤ未タ清國ノ名師タル可シト
虫モ今マ上ニ記述セル「ローケルベークン」氏等其他ノ
諸名家ヲ今日ノ歐米ニ再生セシメンニ其ノ自カラ登
明セル學科ヲ教授スルノ學校ニ入ルモ決シテ其地位
ヲ存スル能ハサル可レ今マ歐米ニ於テ學科ヲ卒業セ
ル二十歳ノ壯年アレハ之レヲ稱シテ學術ヲ得タル人
ト稱スルモ彼レ其間ニ學術ヲ勉ムル無クシテ六十歳
ニ至ラハ殆ト不學ノ人タルヲ免カレサル可レ清國ニ
於テハ之レト反シ一タヒ學士ノ列ニ達シタルモノハ

其ノ經傳上ニアツテハ己ニ其學術ヲ卒業シタルモノ
也而シテ該人若シ一千年生存スルト為サンニ其晩年
ニ於テ學術ノ進歩スル處ハ其ノ壯時ニ得シ處ト異ナ
ラサル可キ也然リ而シテ五千年ノ古國ヲ以テ字内ニ
誇稱セル清國ハ學術ノ優劣ヲ比較スルニ方リ僅カニ
開國來一百有餘年ニ過キサル米國ト肩ヲ并フルヲ得
ナルニ非ラスヤ

是故ニ今若シ日本ハ將來十年ノ間今日歐米ニ於テ刊
行セル學術書ヲ勉強シ之レヲ實際ニ施行スルト為サ
シニ然レハ尚ホ學術上ニ於テハ各國ニ後ルハ十年ニ
過キサルヲ得ナル也然ルニ僅カニ明治維新ノ前ヲ回
顧スレハ更ラニ此類ノ學ヲ嘗メサルノミナラス一千
八百六十七年ノ大變動ニ至リ其方向ヲ變スルニ至リ

レ迄ハ人民ハ恒ニ應仁天皇ノ世ニ行ハレタル學術ヲ
反覆再讀スルニ過キス實ニ一千三百有年ノ間政治家
製造者技術家農業者工作家ノ別ナク日本全土ヲ舉ゲ
恒ニ同一ノ方法ニ随ツテ其業ヲ営ミレ也然レハ將來
ニ至ワテハ決シテ然ラス今歐米ノ技藝學術製造ヲ論
ヒス今日日本青年徒々修ムル処ノモノ假令有用ニ屬
クスルモノナリト虽モ今ヨリ二十年ノ經過ニ其業ヲ
終ヘタルノ日ヨリ之レヲ見レハ顧フニ間然スル処多
カル可シ而シテ日本ハ自カラ其學術ヲ保持生養シ之
レヲシテ其果實ヲ結ハシムルニ至ル可キハ今日ニ於
テ其理學ヲ講究シ數箇ノ科業ニ孰キ苟リ得タル支木
ヲ得テ本幹ニ嵌付シ新接木ノ十分ニ密着セシ後ニア
ラサレハ能ハサル也然リト虽モ其ノ間々尚ホ歐米ノ

助カヲ藉ラサルヲ得サル可シ蓋シ此説ノ精義ナル獨
リ理論上ヨリ起ルノミナラス古今ノ成敗得失ニ孰キ
証明シ来タルモノニシテ以テ一二邦國ノ情勢ヲ審知
スルヲ得ル也是故ニ我儕ハ文明進步ノ高点ニ達スル
邦國モ尚ホ一二ノ生産上ニ於テハ獨立ヲ以テ之レヲ
營ム能ハサル所以ヲ了解スル也見ヨ須要ナル高價ノ
貨物ヲ十分ニ産出スルノ國アルモ其貨物ノ形体ヲ變
シ人民有用ノ具タラシメントセハ隣邦ノカヲ藉ラサ
ルヲ得サルモノアルニ非ラスヤ米國ノ綿布ニ於ル如
キ即是也夫レ米國ノ如キハ優等ナル綿布ノ多量ヲ産
出シ器械ノ精良ナル他邦ニ讓ラスト虽モ然レハ人民
ハ尚ホ其ノ産出スル処ヲ以テ内國ノ需用亦ヲ輸出ニ
適ス可キ製造ヲ為ス能ハサル也

一千八百六十八年ニ於テ米國生産額二百七十
萬俵ノ中外國ニ輸出セシモノ一百九十六萬千九百零
九俵餘(一俵四百ポンドニシテ斯代價一億五千八百十
二萬零七百三十三弗トス)ナリシカ一千八百六十九年
ニ於テハ收穫ハ三百萬俵餘ニシテ外出ハ二百萬俵ニ
過キナリキ毛ノ製造ノ如キモ亦々然リ一千八百六十
九年ニ於テハ米國ニ三千七百七十二萬四千二百七十
九羊頭(此代價八千二百十三萬九千九百七十九弗トス)
アリ而シテ學者ノ精密ナル考定ニ因リ米國ノ氣候地
質ハ他ノ各國ヨリ「コロリス」製造ニ適當ス可キ精製ノ
毛ヲ產出スルニ適ス可キヲ發見シ實ニ米國產ノ精良
ナルハ澳地利ノ毛ニ優リタリキ夫レ然リ斯クノ如キ
利益アルモ尚ホ一千八百四十年ニ至ル迄ハ米國ニ於

テ費耗セル「コロリス」カスノルノ十分ノ十九ハ悉ク
外國ノ製造ヲ經タルモノニ非ラサルハ勿カリキ一千
八百六十八年ニ於テ米國ニ產出セル毛ノ供給高總テ
一億零二百万ポントナリシト雖モ同年ニ於テ該品ノ
日耳曼ベルキーム、佛蘭西、英吉利ヨリ輸入セル總額七
百十三萬九千六百零五弗トス而シテ年ヲ收シ毛ヲ製
スルノ業ヲ始メシハ實ニ輓近ニアラス觀フニ当初米
國ニ輸入セシ年ハ一千六百九年ヲ以テ「ウイルジニヤ」
ニ運搬セシモノナル可ク亦々内國ニ於テ毛ヲ以テ「ナ
ロリス」ヲ製造スル「ヲ企テタルハ一千七百六十五年
ノ事ナリ其他我儕カ其例ヲ引証セントスル實ニ枚挙
ニ遑アラサル也
今マ一國カ斯クノ如キ一時ノ困厄ヲ免カル、ノ速カ

ナラントヲ欲セハ已ニ十分ノ開明ニ達シタル邦國ノ
人氏ト利害得失ヲ共トスルノ術策ニ過キサル也英吉
利日耳曼佛蘭西合衆國ノ各國モ前日ニ於テハ斯クノ
如キ手段ヲ行ヒタリシト虽モ然レモ今日ノ日本ノ如
キ便宜ヲ有スルト勿カリシ也彼ノ英國日耳曼カ今日
ノ工業商買ヲ有スルニ至リシモノハ他ナレ一千六百
八十五年佛國王路易十六世カナンテス勅詔ノ廢棄ヲ
令シ爲ノニ五萬ノ佛國人(或説ニハ五萬ヨリ多スト云)
秘密ナル佛國ノ工業ト財貨トヲ荷ヒ家ヲ擧ケテ和蘭
英吉利スウイセラレド日耳曼ニ遁逃セシニ因リ佛國
ノ貴重ナル練熟ヲ主トスルノ激幸ニ因ルニ外ナラサ
ル也此時ニ方ツテヤ到ル處喜躍シテ此等ノ佛國人ヲ
招待セサルハナク資本ヲ有セサルモノニハ資本ヲ貸

與レ或ハ製作所ヲ築キ之レヲ給ス龍動府ノ一地方ニ
ハ絹水晶鋼鐵等ノ製造ニ練達セル工人羣ヲ為スアリ
幾モナク此等工業ノ優等ハ英國ニ歸スルニ至レリ或
ハ百林ハ爲ノニ一都會トナリ當時不毛タリシ普國ノ
地方ハ開拓セララルトナリ而レテ普國ヲシテ歐州中
ニ於テ未曾有ノ権カヲ有セシムルニ至リシハ當時彼
ノ佛國遁逃人等カ國王ヲフレデリックセゲレートヲ贊成
スルノカ多キニ因ル也已ニシテ佛國ハ宿醉漸ク醒覺
シ再ヒ前日ノ如ク製造貿易ノ繁榮ヲ回復セント欲ス
ルニ方ツテヤ先キニ自國ノ工人機師ヲ放逐シタル誤
國ノ内地人ヲ招待シ以テ自國製作所ヲ管督セシムル
ヲ得サルニ至リシ也今日魯米ノ兩國ヲ見ルニ工業技
術ノ其國ニ行ハルハ日已ニ久シト虽モ未タ外國人ノ

助カヲ藉ルニ非ラサレハ其ノ繁榮ヲ致ス能ハサルカ
故ニ數名ノ統異機師長及機術師ヲ傭使ス而シテ外國
人ノ才藝アルモノアレハ大ニ之レヲ勸奨シテ其國ニ
永住シ以テ歸化セシメシトテ欲スル也是レ他ナレ米
魯兩國カ工業ノ速進ヲ來メセル所以ニシテ米國カ生
産ノ多キハ殆シト英國ヲ苦惱セシムルノ競手トナリ
魯國ノ進歩ハ自ラ英國カ壟斷ノ權ヲ免カレシメシト
スルニ至ル也見ヨ魯國ハ己ニ中央亞細亞ニ於テハ英
國ノ通商ヲ壓倒シタルニ非ラスヤ顧フニ魯國若シ外
國人ノ助カヲ藉ルノト勿カリセハ通商也鉄道也運輸
ノ便也到底今日宇内ニ誇稱セル如キ富強ヲ極ハル能
ハサルノニナラス試驗ノ為メ徒ラニ巨多ノ財本ヲ糜
消スルニ至リレナル可シ而シテ亦タ米國カ僅々一百

年間ニ於テ斯クノ如キ神速ノ進歩ヲ為シタルモ他ナ
レ宇内各國ノ衆智ヲシテ尽ク其内國ニ熾集シタルノ
措置ニ因ルニ外ナラサル也

以上陳述シ來タルモノハ實際ノ証徴ナリト云モ然レ
凡尚ホ日本人ニ忠告スルニ泰西人ノ移住シ來タルモ
ノヲシテ其海濱ヨリ擴行ス可シト為スモノアリ其說
ニ曰ク米魯ノ兩國カ外國人ノ歸化ニ因リ其利益ヲ得
ルニ至リシハ思想也習慣風俗也意象也内地人ト移住
人トノ間悉ク其風ヲ同ラスルカ為メニシテ若シ夫レ
否ラスレハ兩國ノ人民同心結合シテ今日ノ如キ富強
ヲ生ス可キノ理ナシ然リ而シテ日本人ト外國人トニ至
ツテハ全ク人類ヲ殊ニスルノニナラス其風俗意向モ
亦同シカラサルカ故ニ今日相ニ共ニ居テ同フスルニ

於ルモ尚ホ能ハサラントス況ンヤ日本帝國ヲシテ泰
西人ノ歸化ヲ許シ自由ニ工業ヲ起サシムルアラハ外
國人ハ一時ハ日本内地ニ雲集シ己ニ財貨ノ積累スル
アレハ之レヲ生國ニ送付セントスルノ恐レナキニ非
ラス是故ニ外國ノ人民永久ニ移住スルニ當ツテハ其
利益ヲ發生スル點ナカラスト虽モ唯モ一時ノ歸化ニ
因ル中ハ為メニ發生スル處ノ富財ハ決シテ日本ノ利
益ナル無シト

然リト虽モ米國大陸ノ人民カ解説セシ如キ外國人ノ
移住ニ因リ富財ノ發生ス可キ一事ニ付テハ其國ノ人
民ニ因リ自カラ異ナル處ナキニ非ラサル可シ今ヤ日
本ハ其國ノ地理ト人口ノ多キニ因リ敢テ巨多ノ人民
移住シ来タルヲ必用トセス唯モ當時ニアツテ日本ノ

最モ勉ム可キモノハ人民ヲシテ内地文明ノ俗ニ移ル
ニ隨ヒ生、可キ需用ノ具ヲ供給シ併セテ一國ノ文明
ニ大関涉ヲ有スル智識繁榮富財ヲ得セシム可キ便宜
ヲ求ハルニアリ若シ今日日本ニ来タリ十五年若クハ
二十年間此國ニ居住スルノ歐米人カ其間ニ於テカ
日本ニ效タシ幸ニ需用ノ貨物ヲ産出シ其ノ智識繁榮
富財ヲ得セシムルアラハ是レ其移住人カ其任ヲ遂ゲ
タリト云フモ不可ナル勿カル可シ一時ノ移住人カ為
シ得可キモノハ之レヲ措テ何フヤ然リ而シテ一時ノ
移住人タルヤ日本ニ斯クノ如キ助カヲ賦與スルヲ得
ルト虽モ爾後之レカ為メニ結果シ来タルノ利益ヲ日
本ヨリ剝奪シ去ル能ハサル也蓋シ試ニニ其利益ヲ剝
奪シ得ルト為サン乎其移住人カカヲ效シタル版圖ノ

一部ヲ畧奪スルト為サ、ルヲ得サル可ク而シテ唯ニ
版圖ノミナラス此國ニ來タリシ以來共ニ接シテ今日
ノ練熟繁榮ヲ得セシメタル日本人民ヲモ荷ヒ去ラサ
ルヲ得サル可シ是レ豈ニ行ヒ得キコトナランヤ我儕
ハ一時ノ移任人カ其任ヲ卒ヘ他日此國ヲ去ルノ時ニ
臨ミ多少ノ富財ヲ荷ヒ去ルヤノ一事ニ至ツテハ敢テ
論辨ヲ費ヤスヲ欲セスト虽モ是レ唯ニ其力ヲ效シテ
富財ヲ起シタルノ相当ナル口錢(字義爭当ナルヤ否ヤ)
ニ過キスシテ所謂カヲ勞シテ得ル処ノ報酬ナリ之レ
ヲ辨償スルモ決シテ悲歎スル勿ル可シ諺ニ云ハスヤ
勞者ハ報給ヲ受クルハ推アリト
今我儕カ前条陳述シ來タル如ク一時ノ移任人ニ因リ
遂ケ得ラル可キ職任ヲシテ政府ニ委任スルハ亦々策

ノ得タルモノニ非ラス何ヤナレハ之レ勤モスレハ日
本ノ國庫ヲ空乏ナラシムルノミナラス苟クニ政府カ
我儕前章証明セル主義ニ背戾シ人民各自ノ未ク手ヲ
下タサ、ルノ事業内ニ干涉スルノ國ニアツテハ禍機
ノ其間ニ埋伏スルハ我儕ノ知ル処ナルヲ以テ也見ヨ
斯ノノ如ク政府ハ人民ノ私權ヲ犯スハ人民ハ政府
ヲ敵視シ政府ハ亦々權カヲ以テ人民ヲ壓服セントシ
其極遂ニ一國ノ命脉ヲシテ危殆ノ中ニ坐セシムルニ
至ル可キ也

是故ニ我儕ハ工業ニ関スル改革ニ於テハ前条陳述セ
ル方法ニ随フヨリ良策ナキヲ信スル也先キニ第七章
ニ於テ我儕カ裁判法律改革ノ意見ヲ記述シタルモ亦
々日本ヲシテ前条ノ方法ヲ採擇セシムルニ欠ク可ラ

サレカ故アルニ出ルナリ蓋シ日本帝國將來、繁昌多クハ裁判法律ノ改正ニ関スルモノナルヲ以テ也實ニ斯クノ如キ改革ノ方法ニ基クニ非ラサレハ此國ノ繁榮ハ決シテ容易ニ遂ケ得ラル可キニ非ラサル也苟クモ斯クノ如ク未タ草創ニ屬セル工業ヲ保護センノ目的ヲ以テ各國ノ交際ヲ確固ナラシムルハ關稅ノ自由モ回復セラル可ク併セテ一國ノ体面ヲ一洗スルヲ得可ク金貨ノ濫出モ制限スルヲ得可ク外國ノ輸入ヲ制止シテ生綿一ヤルド青黛一ポンドモ外人ノ携帶シ来タルヲ得セシメサルヲ得可ク尚且ツ節用練熟ヲ以テ一國ノ財政ヲ所スルヲ得ル可キ也然リト雖モ亦ク能ク裁判法律ノ改革ヲ行フニ非ラサレハ斯クノ如キ利益ハ毛モ其功ヲ見ル能ハサル也蓋シ人民ハ尚

天皇陛下カ維新誓詔ノ第五条ヲ以人民ニ賦與セラレタル徳澤ヲ蒙ル能ハス而シテ裁判法律ノ改正已ニ行ハル、ノ後ニ非ラサレハ決シテ其焦域ニ浴スル能ハサレハ也

第十卷 華族新版圖

一國ノ財本ヲ投資スルハ農業ヲ起スヨリ吾キハナシ
トハ人能ク知ル処ナリ是故ニ我僑前章ニ於テ論述セ
シ如ク華族ニ新版圖ヲ與ヘ以テ之ヲ開拓セシムル所
ハ華族ハ其ノ最モ願望ス可キ好機會ヲ得タルモノト
言フ可キ也

我僑ノ計算ニ因レハ蝦夷、琉球島ヲ除キ日本全土ノ総
平面ハ二千七百九十四萬九千七百七十九町トス而シ
テ一千八百七十五年大藏省編纂ノ統計表ニ因レハ其
中耕地ニ屬スルモノ四百零九萬千百十三町トス残
不毛地中人民ノ所有ニシテ地租ヲ納ムルモノ三十二
萬五千三百三十四町ニシテ残り不毛地二千三百五十
三萬三千三百三十二町ハ或ハ官有地タリ村有地タリ

亦タハ人民ノ私有タリシト虽モ更ラニ收穫十キノ地トス

今ニ内地ヲ旅行シタル者ノ見聞ニ係レル概畧ノ調査ニ因ルノミニテハ日本総全土中耕作ニ適スヘキモノ幾千ニシテ牧草地ニ用ニ可キモノ幾千アルヤ我儕精密ニ之レヲ計算スル能ハズト虽モ日本ト稍々其地理ヲ同ワシタル他邦ノ計算ヲ引用スル所ハ其概畧ヲ調査スルヲ得可シ譬ハ英國ノ如キ英國百科類聚ニ因レハ蘇格蘭土ニ於ル耕地ノ割合ハ全平面ノ百ニ付二十六、二分ノ一ニシテ即チ不毛地ニ属タスルモノハ百ニ付七十三、二分ノ一ノ割合トス而シテ此耕地ノ殆ト半額ハ牧草場タリト虽モ蓋シ是レ皆十山岳ノ地ニ非ラスシテ穀物ヲ播種スルニ適スルカ故ニ我儕ハ之レ

ヲ耕地内ニ加ヘタリ英吉蘭土、ウユルス、ニ於テハ耕地ノ割合ハ百ニ付七十七、二分ノ一ニシテ不毛ノ地ハ百ニ付二十二、二分ノ一ノ割合トス愛爾蘭土ニ於テハ耕地ノ割合ハ百ニ付七十二、四分ノ一ニシテ山沢ハ百ニ付二十六、二分ノ一湖水ハ百ニ付二、四分ノ一ノ割合ナリトス

以上記述スル処ノ計算ヲ精確ナリト為サンニ今日本カ英吉蘭土、ウエルス、ノ如ク農業ヲ開墾スル所ハ不毛ノ地六百二十七萬七千七百町ニシテ耕地二千六百六十七萬二千零七十八町(即チ今日ヨリ多キ千二百五十八百零九百六十五町トス)ヲ有セズンハアル可ラズ蘇格蘭土ノ如キ農業ノ盛大ニ至ラント欲スレハ不毛地二千零五十四萬零百七十七町ニシテ耕地七百四

十零六千六百九十一町(即今日ヨリ多キ三百三十一万
五千五百七十八町トス)ヲ有ヒズンハアル可ラズ而シ
テ亦夕愛爾蘭土ト平均ナラシメントセハ不毛地八百
零二万五千五百六十一町ニシテ耕地千九百九十二万
四千二百十七町(即今日ヨリ多キ千五百八十三万三千
百零四町トス)ヲ有ゼズンハアル可ラズ内地ヲ旅行セ
シモノ、見聞ニ因レバ日本カ農業ヲ開墾スルニ適ス
ルノ地ヲ有スルヤ却テ蘇格蘭土ニ超越シテ英吉蘭土
ヲ工ルス、愛爾蘭土ニ比シ土地大小ニ付論スルハ其
耕作ニ適ス可キモノ尠ナシト雖モ然レモ牧草ノ地ヲ
有スルカ故ニ一國ノ富賤ヲ進ムルニ至ツテハ其耕作
ヲ以テ利益ヲ生スルト相異ナルナシト
日本カ斯ク非常ナル牧草地ノ天恵ヲ有スルニ至レル

モノ其理最モ見易キモノトス顧フニ是レ東濱ノ全海
ヲ下流セル温水アリ其ノ蒸發氣上天シテ寒風ナル丘
陵ニ於テ密縮セラレシニ因ルモノニシテ之レヲ譬フ
レハ夏時硝子ナル窓戸ニ附着セル蒸珠ヨリ家屋ノ頂
上ニ於ル空氣ノ濕液ハ甬后温カナル驟雨トナリ降下
スル如ク就中南方ノ緯度ニ當ルノ地方ニアツテハ洋
回帰線ノ氣候ヲ生スルアリ斯クノ如クニシテ温氣ヲ
與フルカ故ニ高山絶頂ニ植物ヲ生スルモノニシテ決
シテ其他ノ原因アルニ非ラサル也而シテ其植物ヲ生
ス可キ山脉峻岨峻険ニ過キ以テ羊及ヒ家畜ヲ牧スル
能ハサルハ亦夕頗ルヤンゴラ、ゴート(山羊)ヲ育スル
ニ適シ却テ羊ヨリ多クノ利益ヲ生ス可キモ決シテ其
少キヲ憂ハサル也是故ニ日本内地ヲ旅行スルモノ

ノ報道ヲシテ太過勿カラシノハ農業ヲ開墾ス可キ地
福ニアツテハ日本ハ英吉蘭土ト蘇格蘭土ノ中間ニ居
ル可クシテ全平面百分ノ五十二即チ一千四百五十三
万八百八十五町ハ耕地タラシムルヲ得可キ也而シテ
斯クノ如キ農業ヲ盛大ニ達セントセハ勿論今日ヨリ
多キフ一千零四十四万二千七百七十二町ノ耕地ヲ有
スルニ至ラズンハアル可ラズ

今ニ斯ク農業ヲ盛大ナラシムルニ因リ日本ノ國財ヲ
増ス果シテ幾千ナル可キヤヲ論定セント欲セハ必
ズ先ツ其地方ヲ開拓スルニ於テ幾千ノ價值トナル可
キヤ亦タ随ツテ其收穫スル必如何ナルヤヲ查明セズン
ハアル可ラズ我侪ハ今ニ之レヲ証明セシカ爲メニ日
本全國ノ耕地ニ付大畧省ノ採用セシ方法ニ基キ其地

ヲ二等ニ分チ而シテ其甲乙兩間ノ以例ハ今日ノ慣法
ヲ用ユ第一等タル田地ハ一町ニ付五百三十一円二十
四銭ノ價值トシ第二等ハ一町ニ付二百零六円七十二
銭斯クノ如クニシテ一町ニ付平均三百七十九円十七
銭ノ價值ヲ有スルモノト想像ス可シ

我侪ハ確實ナル報道ニ因ルニ日本ニ於テ未タ開墾セ
ザルノ地ハ大凡一町十四円七十七銭ノ割合ニシテ前
条陳述シ来タレハ一千零四十四万二千七百七十二町
ノ價值ハ唯一億五千四百二十三万九千七百四十二
円ニ過キサラントス而シテ今ニ下総牧羊地ノ如キ方
法ニ因リハ一千零四十四万二千七百七十二町ヲ開墾
スルノ失費ハ一坪一銭三分ノ二即チ大凡一及一円一
町十円ノ割合ナル可ク其他亦タ開墾ノ費ヲ按シテ耕

作ニ適ス可キモノト為スルハ平均一町ニ付三百七十
九円十七銭即チ総計三千九億五千九百五十七万五千
八百五十九円ノ價值トナル可キノミナラズ其收穫ハ
平均地價百分ノ十一百分ノ六十分ヲ生ス可シテ而
シテ其收穫百分ノ三ヲ公租トシ百分ノ二、百分ノ六十
五ヲ耕作費トスルハ残百分ノ六ハ全ク生産者ノ手
取トナル可シ然ラハ則チ全收穫高ハ四億六千二百二十
九万零五百八十七円ニシテ地價百分ノ三ヲ以テ比例
スルハ政府ノ歳入トナル可キモノ一億千八百七十
八万七千二百七十五円ニ過キサル可ク然ルニ所有者
ノ收穫タル地價百分ノ六ヲ以テ以例スルハ即チ二
億三千七百五十七万四千四百五十一円ニシテ其生産
費ハ一億零四百九十二万八千七百六十円トス

残一千三百零九万零五百六町ノ中ニ就キ牧草地タル
ヲ得可キノ部分ハ即チ我輩前条掲載セル耕地ノ比例
ニ等シト假定セシニ然ルキハ所謂百ニ付五、四分ノ三
ノ割合ニシテ彼ノ峻坂、峻岨ニシテ耕耘ニ適セス亦々
ハ一二獸類ヲ牧畜スルヲ能クセザルヨリ慨シテ荒地
ト稱セルモノ一千零九十二万五千九百四十二町ヲ引
去ルハ其ノ牧草地タルニ適ス可キノ部分ハ二百十
六万四千六百零八町ナル可シ然リト条前条記述セシ
如ク日本ニ於ル峻坂、峻岨ノ地ニアツテハ「アソゴロ、ゴ
」トテ肥満畜育ス可キ饒利ノ牧草ヲ産出スルモノ多
キヲ故ニ苟モ此用ニ供スルハ頗ル貴重ス可キ牧畜
地ナルヲ得可キ也是故ニ此荒地ヲ農作スルハ其巨
利勝ヲ算ス可ラズト云モ唯、農者ノ労資ヲ費ヤスナリ

自生ノ収獲ヲ得ルノミヲ以テスルモ恐ラクハ彼ノ本
牧草地タルニ百十六町四千六百零八町ヲ開墾ス可キ
費用ヲ償フニ餘裕アル可シ蓋シ牧草地正實ノ収獲ヲ
計算セント欲セハ必ラズ先ツ其費用幾ナルヲ知ラ
サル可ウス英國ニテハ歲々本牧草地ヨリ納出ス可キ
穀箇ノ収獲ハ一アツクル即チ
ニ於ル如ク日本ノ牧草地ヲシテ穀多ノ獸畜ヲ充溢十
ラシムルヲ得可キハ穀年ヲ幾カサル可シト雖モ其収
獲ヲ賣販スルニ至ツテ一層ノ困難ナキヲ得ザル可シ
蓋シ日本年ニ亞細亞全洲ニ於テハ牧草地ヨリ産出ス
可キ貨物ヲ賣純スルモノ寔ニ僅少ニシテ英國及ヒ歐
洲陸邦ト自ラ相異ナル処アレハナリ見ヨ亞細亞地方

ニアツテハ道路僅少ニシテ然カモ僅カニ荷馬及ヒ其
他本國ニ使用スル運搬器械ヲ通過スルニ過キサル
ノ隘衝ナルカ故ニ乗馬ノ如キニ於ルモ需用自カラ限
アリ随ツテ貨物ヲ運搬シ人民ヲ裁棄ス可キ車駕ニ至
ツテハ亦タ寥々タラサルハナシ是故ニ日本ニ於テ牧
草地ヲ開墾スルハ概シテ其他ノ農作ニ一等ヲ讓ラザ
ルヲ得ス然レモ請フ我侪ハ寧ロ敢言セントス牧草地
ヲ開墾シ牧畜ノ利原ヲ盛大ナラシムルニ非ラザレハ
荒ヲ拓キ農ヲ起スノ道決シテ行ハル、ヲ得可ラズト
何トナレハ日序ノ地味タル假ハ豊饒ナリトスルモ其
肥糞ヲ施コスニ非ラザレハ以テ能ク貨物ヲ生産スル
ヲ得ザレハ也蓋シ各種貨物ノ産出ヲ媒助ス可キモノ
ナレト言フニ非ラズ唯ニ其地タル現ニ睡眠ノ状ヲ呈

シ造化ノ發育ヲ感スルナシ而シテ其睡眠ヲ醒覺シテ
造化發育ノ序分ヲ遂ケシメント欲セハ温素温氣ノミ
ナラス一二媒助ス可キモノナキヲ得ス肥糞ナルモノ
即是也今日本農氏ノ現況ヲ見ルニ汚糞、灰、鎔解ス可
キ野蒜、昆布等然テ其供給限リアツテ唯ニ接近ノ地方
ニホテ容易ニ求得セラレ可キ殆ト無價ノ肥糞ヲ用ユ
ルニ過キズ蓋シ人民各自所有セル荷馬ヨリ得ル処ノ
肥糞タル固ヨリ些少ニシテ其貧困ナルカ為メニ人造
ノ肥糞ヲ買求シ能ハザレハ也而シテ偏々人造ノ肥糞
ヲ買求ス可キ資カアルモノアルモ今日運輸ノ状況ニ
テハ之レヲ河港ヨリ田園ニ運搬セルトスレハ頗ル不
廉ニ屬クスルカ故ニ遂ニ之レヲ使用スルヲ得リル也
讀者附録丙号、甲表、第四、及ヒ第廿一号ヲ看過スルハ

今日本ニホテ速ニ農作ヲ盛大ナラシメントスルニ
方リ唯、耕、耘、蒔、收等ノ用ニ供スルノミヲ以テスルモ獸
馬ノ需用頗ル大ナルニ至ル可キヲ知ル可レ蓋シ荒ヲ
拓キ農ヲ起スニ至ラサル間ハ羊毛其他一二ノ貨物ヲ
除クノ外牧草地ノ產物ヲ需用スル固ヨリ限リアル可
レト由モ僅カニ將來五六十年ニ發育ス可キ時勢ノ変
遷ヲ以テ之レヲ推測スルモ牧草地タルヤ寔ニ日本、
一大利原タルニ至ル可キハ瞭然タリ今ニ假リニ牧草
地ノ産額一町ニ付七円四十七銭ト為レ即チ英國産額
ノ九ノ六分一ト定メシニ然ルハ日本人民ハ歳々一
千五百七十三萬六千七百円ヨリ少ナカラザルノ歳入
ヲ生ス可シ而シテ此歳入ニ加フルニ荒地ヨリ産出ス
可キ利益ヲ以テ本牧草地産生ノ費額ヲ償フ可シトス

ルハハ(本牧草地ヲ開拓シテ遺利トキニ至ラシムルノ
后ハ果シテ斯クノ如クナル可シ)牧草地ノ草高ナルモ
ノ即チ荒地及ヒ牧草地正産ノ産額タル可シ之レヲ計
算スレハ百分六ノ以例ヲ以テ其地方ニ得可キノ収獲
二億六千零八十一萬千六百六十六円即チ一町百二十
円零四十九銭ニシテ而シテ地價百分ノ三ヲ以テ比例
シ政府ニ納ムル處ノ歳入ハ七百八十四萬零三百五十
円タル可シ

以上記述セシ處ノモノハ即チ我侪ノ探究セル計集十
リ蓋シ其概ル必精確ナル報道ニ基カサルヲ以テ之レ
ヲシテ全ク信用ス可シト揚言スルヲ得ズト云モ之レ
ヲ他邦ニ徴シテ確實ニ述ントスルキハ敢テ之レヲ擴
伸シ去ルヲ得ザル可シ夫レ現今耕耘ノ方法ニテハ日

本不毛ノ地ヲシテ速クニ開墾ノ効ヲ率、耕地亦タハ
牧畜地タラシメントスル蓋シ其ノ就ルヲ保ス可クズ
何トナレハ己ニ業ニ農作ニ従事スルモノ頗ル過多ニ
シテ其他ノ勤勞ニ従事スル者甚タ僅少ナリ是故ニ日
本ニアツテハ一國殖産ニ従事スル各種勤勞者ノ間其
平均ヲ得ス今ニ全國ノ耕地ニ屬タスルモノ四百零九
萬千百十二町ニシテ此耕耘ニ従事スルモノ(男女、幼年
ヲ併セ)一千五百三十二萬零三百九十四人ヨリ少クカ
ラズ之レヲ分派スレハ即チ一人ニ付一町百分ノ二十
六ノ割合ナリ然ルニ米國ニ於テハ人民ノ推衡ハ農作
ニ傾キ其田園タルモノ統シテ三百五十七萬八千三百
九十二方里即チ四千五百九十二萬九千五百四十九町
ナルニ其耕耘ニ従事スルモノ大凡一千八百二十六萬

零二百十三人之レヲ各自ニ分割スレハ一人ニ付平均
二町五一五ヲ擔任スルノ割合ナリ而シテ米國ノ農者
ハ一町ニ付平均五十四弗八十一セントノ利ヲ奉クル
ニ日本人ハ平均四十四円二十銭ノ額ヲ收ムルニ過キ
マ之レニ由テ見レハ日本ノ農民ハ一人ニ付歲々凡ソ
十一月四十九銭ノ收穫ヲ得ルニ過キザルニ米國ニア
ツテハ平均一人ニ付百三十七弗八十五セントヲ獲ル
ノ割合ナリ

今日日本ノ勤勞社會ノ間再ヒ権衡ヲ平均ナラシメ
トスルニ方リ前途ノ状況ハ頗ル妨碍ヲ現出スルカ如
シト至モ到底之レヲ處スルニ至ツテハ預察ノ如ク甚
クシキ困難アル勿ル可シ何トナレハ日本農民ノ收穫
ヲ享クルニ於テ米國人ニ遠ウサルヲ得ザルモノハ其

概ルハ唯ニ勞三條ノ弊害アルニ歸スルモノニシテ其
弊害ヲ除去セントスル蓋シ易々タルモノナレハ也曰
ク米國ノ農民ハ器械及ヒ學術發明ノ助力ヲ藉リ亦々
ハ其貨物ヲ將テ最良ナル市場ニ運搬スルノ便ヲ得ル
モ日本ハ其勞作ニ於テ是等ノ便カヲ有セス即チ勞
一ノ弊害ナリ曰ク日本人ハ偶々此等ノ便カヲ有スルア
ルモ其課税ノ過多ナルニ因リ殖産ヲ興起セントスル
ノ氣カヲ失ハシムルニ至ラシムルモノ即チ勞二ノ弊害
也
勞三ノ弊害ハ即チ田畑多クハ米穀ノ耕作ニ屬クレ而
シテ現今ノ農作方法ニテハ巨多ノ勞力時間ヲ費ヤサ
ザルヲ得ザルカ故ニ至當ノ收穫ヲ享クシ能ハズ偶々
禁等ノ如ク收穫多キ農業ニ従事セントスレハ數多ノ

規則章程アツテ其事業ヲ束縛セラレ為メニ其業ニ就
キ利獲ヲ奉ケントスル頗ル困難タラザルノ得サルカ如
キモノ是也苟クモ規則ヲ設ケテ斯クノ如ク労作ヲ拘
束スルハ其所謂自由労作者ヲシテ奴隸労役ト賃銀
労役トノ中間ニアルノ地位ヲ占メシムルニ至ル可シ
然レト雖モ養蠶ニ比シテ之レヲ見レハ煙草綿茶砂糖
等二三ノ農業ニ至ツテハ取テ束縛セラル、ナシ曾テ
下然羊畜ノ件ニ関シ「ドクトル、ラケアム」氏ノ探究セラ
レタルアリ農器ヲ以テ人力ニ易ユルハ旧法ニ於テ
十八日間ノ労力ヲ費ヤス可キノ事業一日ニシテ其功
ヲ遂クルヲ得可ク荒蕪ノ地ヲ穿崩スルニ方リ農具ヲ
以テスルハ一日一人四及ヲ掘穿スルヲ得可キモ旧
法ニ因レハ同事業ヲ遂クルニ三十四日ヲ費ヤサハル

ヲ得ズト亦ク或者ノ説ニ旧法ニ因レハ日本人ノ労力
者カ一人ニテ十二「インツ」ノ深サニ不七ノ地ヲ掘穿セ
ントスル必ラズ十日以上ノ時日ヲ費ヤサハレハ能ハ
ズト此説最モ信ス可キノ言ナリ蓋シ愛爾蘭人ナルモ
ノ頗ル筋骨強壯ノ稟性ナルニ現今日本ニ於テ使用セ
ルモノニ類似スル器械ヲ以テシ九「インツ」ノ深サニ耕
地四及ヲ掘穿セントスル必ラズ十六日ノ時間ヲ費ヤ
サハルヲ得ズトスヘリ我儕一時ノ見ヲ以テスルハ
勞作ノ遅々ナルヲ怪シマサルヲ得ズト雖モ斯ク作業
ヲ行フニ方リ労力ヲ費ヤサハルヲ得可ラザルヲ考察
スルハハ取テ驚駭ス可キニ足ラサル也「プロヘソル」サ
ミエル、ウ、ジ、コン、ソ、ン、氏曾テ「シカブレ」ルノ説ヲ引用シ
曰ク日本ノ在谷ニホル如ク殖物性ノ素質ニ富ミ禾穀

ヲ産出スル泥土ハ一「フー」ト立方ニ付凡ソ七十「ポント」
即英坪數一「アクル」毎一「フー」トノ深サ一「フー」トハ日
本ニ於テ通常掘穿スルノ深サトスノ重量三百零四万
九千「ポント」ナリト之レニ由テ考フレハ嗚呼彼ノ不幸
貧困ニシテ一「アクル」即四反十九分ノ一ヲ耕耘セサル
得サル者ハ三百零四万九千「ポント」ニ等シキ重量ヲ掘
穿耕耘セサル得ズ而シテ其酬報タル僅カニ円五十五
錢ニ充タサルニ非ラズヤ亦タ歎ヌ可キ哉米圃ノ如キ
ハ蒸氣器械ノ發明ヨリ獸類ト虽モ已ニ斯クノ如キ勞
働ヲ免カル、トトハナリタリ而シテ蒸氣器械ヲ使用
セシヨリ肥糞、收穀等ノ運搬ニホケルノ外一切牛馬ノ
需用ヲ除キタルノミナラズ百ニ付凡ソ三十ノ費ヲ省
クニ至レリ蒸氣器械ヲ使用スルノ第一利ハ牛馬ノ蹂

踏ニ因リ泥底ヲ凝結セシメサルノ一事ニシテ器械ノ
煩雜ナレト雜費ノ巨多ナルハ亦タ其第一弊ナリ
人或ハ云フ田地ナルモノハ慨シテ湿氣多ク恒ニ之ヲ
汲干スルノ自由ヲ得ザルカ故ニ毫モ耕耘スルヲ得ズ
加之ナラス牛馬ノ之レヲ蹂踏セシヨリ樹根ヲシテ泥
土ニ植入スルヲ得ザラシムト然レバ識者ノ説ニ因
レハ此等ノ妨礙ハ亦タ制止スルヲ得可ラサルニ非ラ
ズトセリ「ドクトル」ラサム氏曰ク總テ田地ナルモノ已
ニ米穀ヲ得得セシ后冬ク之レヲ汲干シ得ルカ故ニ容
易ニ耕耘スルヲ得可ク而シテ之レヲ汲干スルモ田地
ヲ救箇ニ分割シ以テ水ノ急ニ流下スルヲ妨止スルカ
故ニ何等ノ不便、損害ヲ生スルヲナシト
概近文明國ノ農具ヲ使用スル片ハ人民殖産ヲ起スノ

量カ増加スルカ故ニ耕耘ニ従事セル人負ル自カラ大
ニ減少セザルヲ得ズ何トナレハ今ニ器械ノ助力ヲ藉
ルハ一人ニ付各ニ町、五一五ヲ耕耘スルヲ得ル可シ
ト假定センニ(蓋レ器械ノ力ヲ藉ラサルハ僅カニ九
方ノ一タモ耕耘スルヲ得サルモトス)然ルハ現時
日本ノ農民(即チ一千零二万一千五百九十六人)ノ
三分ノ二ヲ以テスルモ二千五百六十八万七千九
四町ヲ擔當シテ右農作ニ後事シ之レヲ再言スレハ日
本内地ノミナラス蝦夷、琉球其他ニ至ルモ悉ク適利ナ
キニ至ラシム可キナリ而シテ斯ク労力ニ後事スルモ
猶且他事ヲ勉ムルノ餘暇ナキニアラス佛蘭西、瑞士、蘭
デン、ノールク等其佗泰西諸國ノ農民ノ如ク必ラバヤ急
慢ス可ラザルノ規則ヲ設ケテ知徳ヲ研磨スルニ注目

シ他日富貴祥善ノ門ニ入ル可キ各業ヲ勉ムルノ時間
ヲ有ス可キ也是故ニ文明國ノ器具ヲ以テ之レヲ農作
ニ使用スルハハ利益ヲ加増スルノミニアラズ其進
歩ノ度ニ隨ヒ知徳ヲ進務スルニ至ル可シト云フモ可
ナリ
文明國ノ器械ヲ使用スルハ已ニ従事セル農民ノ數
名ヲシテ業ヲ求ムルニ処ナカラシメントスルノ恐レ
アレ氏是レ亦敢テ驚クニ足ラサル也凡ソ旧慣ニ振ミ
急ニ開進ニ就クヲ欲セサルハ各國人民共ニ免カレサ
ルノ流弊(清國ハ暫ク指キ之レヲ他邦ニ比スレハ日本ハ
其流弊最モ甚レトス)ニシテ苟モ水火ノ力ヲ以テ人力
ニ易コルカ如キノ遷換ニ至ツテハ二十五年若クハ三
十年以上ノ時日ヲ經過スルニ非ラサレハ能ハズ是故

ニ其变换ノ急進ニ過クルニ方ツテハ一國理財上ノ紛
擾ヲ醸シ人民ヲシテ死地ニ困頓セシムルニ至ルヲ保
ス可ラズト虽モ其变换スルヤ斯クノ如ク漸次ナルカ
故ニ其言タル匡救スルヲ得可キ也假令ハ農業ノ歩ヲ
進ムルアレハ必ラヤ他ノ味製品現出シテ人民ノ智
識動カヲ藉リ一國須要ノ恒産タラシムヲ求ムルカ如
シ現今大ニ「ホルモサ」ヨリ輸入セル砂糖ノ如キ顧フニ
琉球薩テ四國ヨリ産出スルヲ得テ猶之レヲ國用ニ供
スルニ餘裕アル可シ而シテ之レヲ國用ニ供セントス
レハ製造ノ業ヲ起サ、ルヲ得ズ果シテ製造ヲ起サン
トス今日ニ至ル迄耕耘ノ專業ニ従事セルモノ之レニ
轉業スル幾干名タルニ至ル可シ樟腦、青黛、煙草、ノ如キ
モ亦然リ若シ夫レ最良ノ製造法ヲ用ユルニ至ラハ今

日ノ如ク未製品ヲ輸出スルナク之レヲ製造シ以テ清
國及ヒ米國ニ輸出スルニ至ル可シ已ニシテ外國ト運
輸ノ便日ニ増シ牧草地ノ開拓日ニ進ムニ至ツテハ亦
夕數箇ノ職業ヲ増加セシ外國運輸ノ便日ニ増スハハ
磁器ノ製造随ツテ起ル可ク牧草地日ニ盛ンナレハ羊
毛ノ製造ナリ滑革ノ製造ナリ其他大小香、鞍、馬具、書綴
器具ノ類ハ牛套等其佗人民ノ需用ニ應ス可キ千種万
類ノ製作必ラス生ズ可シ桑樹、楮樹ノ播殖漸ク盛大ナ
ルニ至レハ養蠶、製絹、製紙ニ従事スルモノ増加セサル
ヲ得マ就中茶ノ製造ニ至ツテハ最モ然リトス已ニ數
箇ノ職業日ニ起リ月ニ盛大ニ至レハ石炭、銅、鉄、鉛、ノ競
業亦々随ツテ生セン日本ニアツテ鉄、鉛、ノ采レテ充溢
ナルマ未タ十分ニ之レヲ証明スルモノ無シト云モ石

炭鑛ニ富ムハ世人ノ疑ヲ容レサル処ニシテ銅、如キ
モ有名ノ教師己ニ之レヲ保証スルアリ
然リト云モ人或ハ云ハントス日本ハ斯ク巨多ノ産物
ヲ以テ果シテ何ノ用ヲ為ス可キ乎此茶、材、砂糖、生、指
ナリ之レヲ何レノ処ニ賣取セント為ス可キ乎ト我輩
之レニ向ツテ断言セン斯クノ如キハモ猪疑ヲ容ル
ルニ足ラサル也ト嗚呼上天日本ニ興ツルニ斯クノ如
キ特別ノ氣候ヲ以テレ其人氏ニ付スルニ勤勉、克、節
儉、温良ノ稟性ヲ以テス如何ソソ日本一タヒ開明ノ門
扉ヲ開ケハ其幸福ニ浴スルノ具ヲ授ケサルノ理アラ
ンヤ英國、如キ若シ日本接近、邦国ニホテ其産物ヲ
買求スルノ邦ナシトセハ恐ラクハ日本ニ産出マル各
貨物ヲ買求ス可シト云モ今、暫ク措キ之レヲ西ニレ

テハ清国ナルモノアリ木材、銅、ナリ小麦、烟草ナリ日本
人民ノ需用ニ餘裕アレハ尽ク其輸入ヲ仰カントス日
本大帝國ノ積財(銀)タル今ヤ惡政府ノ壓制ヲ忌憚シ僅
カニ其跡ヲ陰セリト云モ一度ヒ文明良治ノ天日ヲ見
ルニ至ラハ混々トシテ日本人民ノ需用ニ應スル至ラ
ントス而シテ今日清国ノ如キ到ル必瘡土ニシテ巨多
ノ肥糞ヲ費ヤスニ非ラザレハ何タル貨物ヲ産出スル
能ハス施ツテ其國ノ産出スル必尽ク人民ノ需用ニ供
スル能ハス日本幸ヒニ之レカ接近ノ國タリ如何ソ
為ノニ供給ヲ致スノ好便地タルニ非ラサルナキヲ得
ンヤ
之レヲ東ニシテハ米國ナルモノハ國土人口日ニ増加
繁殖シ生絲、茶、ナリ磁器、砂糖ナリ尽ク其供給ヲ日本ニ

仰カントス現今ノ明証ニ因レハ生結茶ノ二品ハ茶國ノ地味ニ適セスノテ能ク之レヲ産生スル能ハズ砂糖ノ産出ハ僅少ニシ固ヨリ國用ニ給スルニ足ラズレテ而シテ其需用日ニ加増シ磁器ヲ製造スル材料ノ如キ曾テ之レヲ内國ニ求ムルモ得ズト今ニ之レヲ既性ニ徴シ人口ノ増加スルニ隨ヒ茶國ニ於テ茶結ノ需用ヲ加増シタルハ如何ニ迅速ナルヤヲ示シ随ツテ將來日ニ人口ノ加フルニ隨ヒ如何ニ需用ヲ増サ、ルヲ得ザルヤヲ証明セハ茶國ハ日本ノ一大好市場タルヲ知ルニ足ル可キ也一千八百十年ニ於テハ茶國ノ人口唯ニ七百萬人ニ過キザリシカ一千八百二十年ニ於テハ己ニ一千萬人ニ加増シ一千八百三十年ニ於テハ一千二百萬人ニ超過シ一千八百四十年ニ於テハ一千七百零

六万九千四百五十三人一千八百五十年ニ於テハ二千三百十九万九千八百七十六人一千八百六十年ニ於テハ三千百三十九万九千三百人一千八百七十年ニ於テハ四千百六十万零九千人タリ今日ニ至ッテハ即チ四千五百萬ト六百萬ノ中間ニ居ラザル可ラス一千八百六十年ニ於テハ内國ノ平面三百五十七萬八千三百四十二方里ニシテ即チ人口ノ稠密ナル一方里ニ付十人十一人ノ割合ナリ今ニ若シ茶國ノ人口ノ稠密ナル西班牙ノ如クニ至ラハ其人口ニ億万ニ至ル可ク轉シテ佛蘭西ノ如クニ至レハ五億ヲトナリ亦タ白義ノ如クニ至ルハ八億ニ至レハ八千万ノ増殖ニ及フ可シ蓋シ斯クノ如キ計算ハ亦タ敢テ敢テ成倚ノ喋々ヲ要セサルナリ今ニ日本帝國ノ殖産上ニ於テ改良ノ器械ヲ使用セシ

ヨリ生スル処ノ利益ハ特リ以上述フル処ノモノノミ
ニ游ラザル也彼ノ農業上ノ重荷即苛税ナルモノ亦タ
随フテ除去セラル、ニ至ル可。今、大蔵省ノ計算ニ
因レハ日本全国田畑ノ地價凡ソ十五億五千二百二十四
萬二千八百八十八萬円八十四錢タリ而シテ地價百方ノ
十一、五方ノ一ヲ以テ比例スルキハ其收穫ハ一億八千
零七十四萬四千七百十五円ニシテ其内、政府ノ納ムル
処ハ收穫百分ノ二十五、四分ノ一、即四千六百五十三萬
七千二百六十五円トス果シテ然ラハ政府ノ徵採スル
処農民ノ頭上ニ墮落スルノ慘ナルヤ賤然トシテ夫レ
明カナリ然レモ日本現時ノ状況ニアツテハ凶害タル
亦タ免カル、ヲ得可ラサル也見ヨ政府ノ政ヲ施スマ
多少ノ財貨ヲ要スルアレハ之レヲ利益ヲ得ルノ人民

即チ農民ニ徵課セサルヲ得ズ而シテ農民ノ頭上ニ墮
落スル処ノ責如何ニ苛酷ナリト云モ亦々之レニ服従
セサルヲ得ザルニ非ラズヤ然リト云モ我侪己ニ論述
セル方法ニ随ヒ各地方ノ殖産ヲ加増スル片ク假令政
府ノ需用稍多キヲ加フルニ至ルモ一國ノ租税ナルモ
ノ之レヲ稍多キノ人ニ分頭スルカ故ニ人民各自任ス
ル処ノ責ハ自カラ減サスルヲ得可シ譬ハ、現今不耕
ノ地二千三百五十三萬三千三百三十二町ヲ開墾シ内
一千零四十四萬二千七百七十二町ハ葡萄、茶、米、樹、砂糖、
蠟、野菜、等ヲ産シ残一千三百零九萬零五百六十町ハ羊
毛等家畜ヲ牧スルト為サン即中ノ收穫四億六千二百二
十九萬零五百八十七円、乙ノ産額一千六百七十三萬六
千七百円ニ値ル可ク之レニ己ニ耕耘ニ属クセル四百

零九万千百十三町ノ収獲一億八千零八十二万七千百
九十四円ヲ合スレハ総産額六億五千七百九十五万四
千四百八十二円トハナルナリ云シテ僅カニ収獲草高
百分ノ十五ヲ以テ之レヲ課スルハ其ノ政府ニ納ム
可キ租税ハ九千八百六十七万八千七百七十二円ニシテ
此税ヲ課スルヤ今日徴集スル処ノ地方ニ比スレハ凡
ソ六倍四十分ノ三多キノ地方ニ課スト虽モ其實ハ現今
ノ歳入ニ一倍スルニ過キズ蓋シ課税ノ割合タル現今
ノ比例ヨリ低キト五分ノ二十リトス加フルニ政府カ
製造品其位數種ノ工業ニ課スルノ税タル今ヤ僅カニ
七百零八萬二千二百九十九円ニ過キサルモ亦自カラ
加増ス可シト推算セザル可ラズ何トナレハ工業ノ利
源タル農作ノ繁殖ト併馳スルカ故ニ其進歩ニ随ヒ時

千五百一

亘政府其課税ヲ増加スルヲ得可ケレハ也凡ソ政府カ
製造產生ノ貨物ニ税ヲ課スル其方ヲ得レハ人民宅モ
其課税ノ痛痒ヲ感セサルニ至ルモノアリ彼ノ製造品
ノ中ニ就キ請フ煙草ノ一事ヲ以テ之レヲ徴スレ之レ
ニ税ヲ課スルハ實ニ輓近ニ割始シ費耗者之レカ為ソ
ニ何タル痛痒ヲ覺ユルナク而シテ政府ヨリ之レヲ見
レハ歳入ノ一大要部タルニ非ラズヤ其佗工業ノ諸科
ニ課スルモ亦相然リ苟クモ田畑ノ課税ヲ重クスルナ
ク其他ノ雜税ヲ加増スル斯クノ如キ方法ヲ以テスル
ハ地租賦課ノ割合ヲシテ寛裕ノ主義ニ基カレテ遂
ニ農民ヲシテ今日ノ如キ慘況ヲ免カレシムルニ至ル
可キ也

第十一章

前章記述シ来タレル廣潤ノ版圖ヲ開墾シ其作業ヲ興
起スルニ方ツテヤ羣族ヲシテ之レカ創業者タラシノ
人氏ヲ率ヒ以テ改良ノ勞力ニ向ヒ遂ニ最大ノ好結果
ヲ得ルノ端緒ヲ開カシム可キハ我侪ノ企望スル處ト
リ苟モ一度ヒ實際ニ新方法ヲ用ユルヲ遂々ス可ケンヤ見ヨ今
ハ人氏豈ニ此新法ヲ用ユルヲ遂々ス可ケンヤ見ヨ今
日政府カ接近ノ荒地ヲ開墾ス可シト説論スルモ猶且
恬トレテ之レヲ顧リミザルノ人氏ト云モ果シテ器械
ノカツ藉リ其田園ヲ廣抗ニスルハ敢テ意外ノ勞ヲ
費ヤスナク遂ニ一身ノ慘域ヲ免カレ將來幸福ヲ享シ
ルノ道タルヲ實悟スルニ至ル可シ蓋シ農作上粒々辛
苦ノ勞ヲ積ミ百石ノ六ノ収獲ヲ得ルノ農業ニ従事セ

ンヨリ寧ロ勞セズシテ百方ノ十ノ以獲ヲ得ルニ拔資
スルヲ欲スルハ人情ノ免カレザル必トレハナリ而シ
テ農民所有ノ田園狹隘ニシテ其有益ナル器械ノカラ
藉リ之レヲ耕耘スル能ハザル乎或ハ其賤者ノ十分十
ラザルヤハ即他ノ人民ト資ヲ合ス可シ人民各自僅カ
ニ田園三四反貯金數弗ヲ以テ一事業ヲ企圖シ能ハサ
ルアルモ一百人相結社シテ田園三四十町資本數百并
ヲ有スルヤハ之レヲ行フ難カラザレハ也蓋シ山林漁
業製造鑛山ノ如キ皆此例ニ由ル可シ

然リト云モ政府ハ我侪ノ所謂「マジヨレー」トテ佛國ニホ
セ國ヲ方割 方法ヲ採擇スルナク他ノ考察ヲ施行スル
カ如シ耶華族ニ下付セル金銀公債証券ヲ以テ華族銀
行ヲ設置シテ各方ニ散布セル同業會社ト結盟シ苟

クモ地方有為ノ人民ニシテ飄然タル外國教師ニ依頼
スルナク内國官立學校ニホテ卒業セル生徒ヲ仰キ其
國ノ利源ヲ興起セシトスルヲ志思ヲ抱クモノアレハ
之レニ財本ヲ貸與セシメントスルニアリ
我侪ヲ以テ之レヲ見レハ此考察ナル決シテ策ノ得タ
ルモノニ非ラサル也旁一ニ官立學校ノ生徒ニシテ未
タ一事業ヲ擔任シ得ルモノ非ラザル可シ見ヨ及今何
程專門ノ學識ヲ得ルモ實際ノ練磨ナルモノ學科上ノ
能ク教授シ能ハサルモノタルニ非ラズヤ歐米各國ノ
人民ハ皆能一事一業ヲ行フニ方ツテハ俊秀ナル學士
ト老練ナル實際家ト自カテ限思アルヲ知レリ蓋シ實
際ノ施行ニホテハ學科上得ル必ノ智識ト理論方法ヲ
實際ニ經驗シ得タルノ練磨トテ兼有セザレテ得サレ

ハ也彼ノ法律、經濟、勸業、通商、ホ諸学科ヲ卒ヘ實ニ書籍
上ニ於テハ尋常實際家ノ企テ及フ可ラサル壯年輩ア
ルモ決シテ此輩ヲ以テ法律家タリ、化学家タリ、政治家
タリ、機術家タリ、製造家タリ、亦々通商家タルヲ企望ス
可ラサル也、若シ夫レ否ラズンハ、白鬚森々、机上ニ坐レ
ントスルノ博士ハ、尽ク經濟ノ道ヲ能シ、一身ヲ經營ス
可キ筈ナルニ、我儕ハ決シテ此クノ如キヲ知ラザル也、
彼ノ碩学、鴻儒ヲ以テ英名ヲ襲セル人士ハ、能ク事物ノ
真理ヲ發見シ、巧ミニ之レヲ解説スルニ、熟達マルカ故
ニ世網ヲ紀レ、人心ヲ律スルニ於テハ、非常ノ権カヲ有
スルモノナリト、虽モ然レ、凡惜哉斯ク一方ニ向ツテハ、
秀絶ノ稟性ヲ有シ、乍ラ必ラズヤ、他事ニ迂闊ナルヲ免
カレス、而シテ實際ニ臨ミ、之レヲ解明シ、事ヲ處セント

スルニ至ツテヤ、平素ノ戈能景シテ、何ノ用ヲ為サバ
モノアル也、況ンヤ、日本官立学社ノ生徒ノ如キハ、已ニ
上ニ記スル如ク、須要ナル實務上ノ經歷ヲ有セザルノ
ミナラズ、其学社ニアツテ、教育ヲ受クルヤ、曾テ經濟利
益上ニ於テハ、何タル考察アルナク、事々物々飄乎トレ
テ、慣習レ、未タレ、ルカ、故ニ現ニ實際ニ就キ、事ヲ必セン
トスルニ、方ツテヤ、必ラズヤ、其欠ク、火ナシトス、可ラサ
ル也、而シテ、其業ヲ行フヤ、自己貯有ノ財、亦ヲ以テスル
ナク、他人ノ資カヲ以テス、安ソ、法意ヲ欠キ、徒ラニ資
財ヲ浪費スルノ弊、ナキヲ免レンヤ、苟シモ、粒々辛苦ノ
勞ヲ積ミ、財ヲ貯フルモノニ、非ラサレハ、財貨ノ貴重ナ
ルヲ知ル能ハズト、ハ、世ノ通弊ナレハ也、
華族及ヒ人民カ、外國人ノ助力ヲ藉リ、作業ヲ企圖スル

ニ至ツテハ決シテ此クノ如キ通弊アラザル也華族カ
資本ヲ投シ行フ処ノ事業ハ乃今今日之レニ由テ一家
ヲ經營センカ為ノナレハ小心翼々注心ヲ怠ラザル
可キハ言ラヌタス其助カスル処ノ外国人モ亦々事業
ノ成敗ニ因テ一身ノ利害ニ関係スル処アルカ故ニ自
カラ戒慎ヲ加フ可キ也而シテ内外人ノ結社ヲシテ互
ニ其本分ヲ怠ラザレメシカ為メ法律上刑規ヲ定メ契
約満期ニ至ルノ間其間涉セル事業上ニ自己ノ資本ヲ
投入スルノ外国人ニ非ラザレハ一切華族ト結社スル
ヲ許サ、ルモ可ナル可シ

華族カ率先シテ斯ク良業ヲ興起スルハト人民モ亦々
之レニ憤フ可シト虽モ人民各自實際ノ經驗ヲ尽シテ
須要ノ財不ヲ貯累レ其産出スル処ノモノ之レヲ何レ

ノ処ニ向テ賣販ス可キヤヲ實視スルニ非ラザレハ決
シテ華族ノ概ニ習ヒ共ニ俱ニ結社シテ日本帝國ノ利
源ヲ興起スルニ至ラザル可シ斯クノ如キ状況ニテハ
人民ノ進歩遲々ニ属クスルカ如シト虽モ是レ亦々取
捨ムルニ足ラサル也蓋シ日本ノ人民積年ノ弊風ヲ蟬
脱シテ國計ヲ更新スルノ大業ヲ奏セント欲セハ着々
歩ヲ進メ漸ク積ミ功ヲ遂クルニ非ラザレハ能ハサル
処ニシテ凡ソ事物ノ順序皆此クノ如クナラザルヲ得
ザル也譬ハ一州ニホテ牧羊ノ業ヲ起スト為サン政
府之レヲ買求シテ兵卒水夫巡査ノ用ニ供スルカ故ニ
人民ノ婦女始メテ毛織ノ業ニ就クカ如ク而シテ蒸氣
器械ヲ以テ之レヲ精良ニ織製セントセハ毛織ノ製品
世上一般ノ需用スル処トナルニ非ラザレハ能ハサル

也而シテ予織十ルモ決シテ廢止セラル、下勿カル可
シ蓋シ已ニ蒸氣器械ヲ使用シテ精良ノ織物ヲ製造ス
ルニ至ルト雖モ粗料ノ産出漸次ニ加増スルノミナラ
ズ安率水夫、農民、工人等、新料ヲ以テ織織セル衣服ヲ使
用セントスルニ至ル可キヲ以テ也
今ニ華族設立ノ考案ニ基クハ如何ソ斯クノ如キ成
果ヲ生スルアラン我儕ヲ以テ之レヲ見レハ實際ノ經
歴十キ青年輩ハ佛蘭西、白義、英吉利等ニ於テ目撃セル
方法ニ倣ヒ最初ヨリ數万円ヲ費耗シテ巨大ノ蒸氣器
械所ヲ建設シ人民未タ其貨物ヲ使用スルノ便益如何
ヲ知ラサルニ巨多ノ織物ヲ製出スル乎否ラサレハ製
造家等相議シ曰ク物產ノ賣販ヲ速カラント欲セハ
運輸ノ便ヲ起スニ如カスト報國ノ勃起スル處一蹴シ

テ各國ニ凌駕スルニ至ラサルモ之レト併行セント熟
中シ未タ鉄道ヲ架ス可キ地方ノ利源如何ヲ査定セサ
ルニ巨万円ヲ費消シテ鉄道ヲ建築シ一千八百五十四
年ヨリ一千八百五十七年ニ至ルノ間、米國ノ失踏ヲ醸
セル轍ヲ履ミ或ハ數年前「ベル」ニ於テ巨萬ノ財本ヲ
泥ホニ擲棄シタルノ慘況ニ陥リ悔ユルモ及フナキニ
至ル可キ也何トナレハ銀行ニ於テ發行スル紙幣
ナルモノ畢竟事業ヲ興起スルノ資本ニ供スルカ為メ
ナル故ニ其紙幣ヲ償還スルハ即チ將來勸業ノ繁盛ニ
至ルヲ目的トシ漸次ニ収獲スル處ノ利益ヲ以テ償還
スルカ田稼ニ非ラサル勿ケレハ其將來ノ勸業失脚ス
ルノ日ニ至ラハ紙幣更ラニ其位價ヲ失フニ至ル可キ
ハ自然ノ勢ナリ將來ノ事業已ニ失脚シ紙幣位價ヲ失

フノ日ハ如何セン紙幣ハ四方ニ播布ス實ニ一國土
前瓦解ノ慘状ヲ厥成スルノ一大原因タラサルナリ其
影響スル處皆前日ノ失脚ニ粟悚シ永ク事業ヲ興起ス
ルノ銳意ヲ絶ツニ至ル可キ也

附録甲号

日本政府ハ人民ヲシテ舊慣ノ汚俗ヲ洗脱シ固有ノ
蓋惑ヲ除去シ併セテ將來外刺ノ患憂ヲ制止セント
欲シ為メニ學術ヲ播布シ須要ナル知識ヲ擴充セン
トヲ獎勵シタリ枝庠ハ折衷學ノ方法ニシテ男學ヲ
リ女學アリ人民大ニ之レヲ保護ス徳川家康ノ所謂
外教禁止ノ苛令ハ業已ニ廢止ニ歸シタリ(第百七葉
八葉九葉ニ見ユ)

余ヲ以テ之レヲ見ルホク日本已ニ徳川家康ノ所謂外
教禁止ノ苛令ヲ禁止シタル以上ハ將サニ法教放縱ノ
域ニ達シタリト云フ可シ寔ニ法教上ニ於テハ尚ホ云
云為メ可シト日本ニ向テ可キノ道理ヲラス而シテ之
レヲ問テ可ラサルノ道至却テ多シ余ハ此法教ハ非ナ

リ彼ノ法教ニ非ラサレ。成佛スル能ハサル等ハ説ヲ
信スルノ黨ニアラス。シヤム國王曾テ曰ク一人一國ヲ
問ハス法教ハ各自信スル処ノ自由ニ任カセラレタル
モノナリト余ハ頗ル此説ニ同意スル也。而シテ天帝ノ
意全ク法教ヲ各自信スル処ニ任セラレタルト思ハル
ルニ吾黨深ク之レニ関涉シ是非スルハ如何ニモ異ヤ
シヤ可キ自傲、甚タシキト考ヘラル也。價ニ造化主
ノ意、各人民同一ノ敬神法ニ因ル可キヲ欲シタラシニ
ハ各人民ニ同一ナル意思、心象ヲ賦與シ而シテ今日千
種万様ノ嗜好稟性ヲ授付セラル、如ク唯ニ一ノ真神
ヲ奉ス可キ同一ノ考説ヲ興ヘ玉フハ、全能ナル上帝ニ
於テハ容易ナルトニ非ラスヤ去ルカラニ真神ハ千差
萬別ナル礼法儀式ニテ尊敬セラレ、ヲ見サテハ種々

千五十八

雅多ナル大群カ来タリ礼拝スルナリト大ヒニ悦ルハ
トト信シテコフ可トナル可シ天地事物ノ秩序ニ於テ
ハ其レコソ感嘆ス可キ種々ノ礼法ナルヲ、靈明ナル天
神ノ判断ニ於テ之レヲ賞讃ス可ラストシ茂如シ玉フ
ノ理ハアラサル也
日本ノ法教ノ真況ハ萬物ヲ化育ス可キ精神宇宙ニ遍
フシテ充溢シ到ル処多少此精神ヲ含マサルナキカ故
ニ處在皆ヲ神ノ在マサルナシトノ信用ニ基キタリ
是ヲ以テ地方何レノ処モ男女ノ神アツテ人々之レヲ
拜禮シ随ツテ神祇ノ教漸次ニ増加シテ際限アルナキ
也古昔羅馬希獵ノ如ク開闢元始至尊靈知ノ天神獨
云テ奉信ス蓋シ天神特尊男女ノ諸神ヲ降臨シ蒼生ヲ
シテ草昧蠻野ノ俗ヲ導一テ文明華美ノ域ニ達セシメ

生キテハ多クノ祥善ヲ又ケ死シテハ天國ニ入ル可キ
ヲ教示シ玉ヒシトナリ日本人民ハ外教ヲ信仰スルニ
因リ恒ニ信用セシ如キ多クノ利益ヲ得ル可キヤ否ヤ
余カ惑ノヤ益甚矣凡ソ一人一國ヲ問ハス各々一種特
別ノ性質ヲ有スル者ナルカ故ニ亦ク随ツテ一種別異
ナル手段ヲ要スル者ナリ甲者ニ適スルモノハ屢乙者
ニ適セス甲乙者兩カラ其ノ目的トスル処ハ異ナルナ
シト雖モ其ノ所謂目的ヲ達スルノ手段ニ至ツテハ互
ヒニ別異ナルニ傾向スルヲ見ル也吾黨今マ居住スル
世界ノ東西兩半球ニ於テ往日ノ狀況如何ナクヤノ
見ハ其理最ニ解シ易カル可シ

注日本各法教ノ基礎ハ神道即チ國教ナリ余ヲ以テ
之レヲ見ルハ神道ヲ更立シ各法教ノ如ク時ニ隨

ケキル

ヒ宜シキヲ制シ時々整革改定スルハ日本人民ノ良
因ナリト思ハル也然リ而レテ高德明識ノ士此道
ヲ弘張シ拜禮ノ儀式ヲ工夫シ能ク人心ヲ感動セシ
メタラレニハ尚ホ未タ往日ノ佛道ノ如ク無學愚蒙
ナル者ノ人心ヲ籠絡シ得ルモ知ル可カラスト雖モ
今日教育ノ紐立ニテハ人心ノ進歩駸々タルカ故ニ
永ク其ノ權威ヲ維持シ能ハサル可シ神道ヲ整革更
定スルハ羅馬^{カトリック}教ニ多ク俊秀スルヲ得可ク而シ
テ德望アル^{プロテスタント}新教黨ノ他邦ニ於ル如ク日本ニ於テ推
威ヲ得ルニ至ル可シ神道ハ新教ノ如ク神像ヲ禮拜
セサルノ功德ヲ有シ加之ノミナラズ日本人ニ於テ
ハ固有ノ國體タル價位ヲ保ツニ至ル可キナリ
吾黨眼ヲ球上ノ東西ニ注クニ二箇ノ文明ナルモノ獨

立ニ發生シ、數代ノ間互ニ己レノミアルヲ知ツテ他
アルヲ知ラス而シテ其ノ目的トスル處ハ俱ニ同シキ
ニ其ノ目的ヲ達スルノ方法ニ至ツテ殆ント天洲ノ別
異アルヲ見ル也今マ亞細亞人民ト歐米人民トノ間ニ
孰キ之レヲ徵ス可シ、亞細亞、歐米ノ人民ハ未タ鐵録ノ
間ニアリ口ヲ開ケハ則曰ク己レカ欲セサル處之レヲ
人ニ施ユス勿レト蓋シ此格言ハ上帝恰ニ大喝一声シ
人啓ヲ假ツテ言ハシムル如ク日本人民ハ之レヲ金條
ト稱シ、人間道德交際ノ一大綱本ニシテ久ノ世ニ處ス
ル此他ニ出ツ可ラサル也然リ而シテ東西二洲ノ文明
上此主義ヲ實際ニ施行スルノ方法ニ至ツテハ迭ヒニ
天洲ノ殊異アツテ執近鎖國ノ禁漸ク解ケ、二洲ノ人民
相往來スルニ至ルニ到底其目的トセシ意見ノ同一ナ

千六十一

ルヲ認知スルニ由勿カリシ程ナリ、サハ去リ乍カラ古
往今來其ノ施行ノ結果ニ於テハ殆ント異ナル處ナレ
吾黨今マ二洲ノ人民己ニ經過シ來タレル各自ノ進歩
ヲ查明スルハ執近ニ至ル迄送ヒニ文明ヲ競ヒ更ラ
ニ遲速懸隔ナホヲ考フル也而シテ學術上ニ孰キ西國
ノ民東邦ニ秀絶スルニ至リレハ二百年以還ノトニ過
キサル也試ミニ明朝ノ開宗ノ時(一千三百六十八
年)ニ溯リ歐亞人民ノ狀況如何ナリレヤヲ見ハ清國日
本ナリ英國其他歐米諸國也何レノ邦カ能ク文明ノ度
ヲ飛躍シタル乎ヲ知レヲ得可ク亦ク將來ニ百年ニ於
テ何レノ邦カ最モ富強タル可キ乎ヲ明言スルヲ得可
シ蓋シ世道ノ興廢ハ天教ノ免カレサル處ナレハ也
然レト持リ日本ニ孰キ論スルハ法教ノ能ク世綱ヲ紀

人心ヲ律スルヲ得タリ。各法教ノ他邦ニ於ルカ如ク異ナルナキ見ル也。蓋シ往年無學愚蒙ノ痕跡タル一二排斥ス可キモノナキニ非ラスト。虽モ斯クノ如キモノハ人智漸ク進ムニ隨ヒ立トコロニ跡ヲ收ム可キモノニシテ到底一二ノ欠如ヲ措クハ日本人民ノ道德タル決シテ歐米ニ師事スルヲ要ス可キモノ非ラズ。テ却テ歐米ニ俊秀スル者多ケレハ也。今日人民カ經營スル処ヲ見ルニ深ク感情ヲ起サハルハナシ。一家眷族ノミナラス全國人民和親交接シ不幸貧困ナルモノアリ偶隣人ニ扶助ヲ仰クハ必ラスヤ其需ノニ應セラレサルナク禽獸ト虽モ人民仁慈ナルノ恩ニ浴セサルナシ亦ツ中馬ナリ犬ナリ未嘗テ堪ヘサルノ苦役ニ使
用セラル、ナク假令貧困ノ家室ト虽モ朝暮食期ノ后

477

多少ノ米穀ヲ戶外ニ散レ以テ鳥獸ヲ畜ハサルノ人アルヲ見ス斯クテコソ宇宙ノ人民造化ノ大法ニ隨ヒテ天ヲ仰ヒテハ其天井ヲ共トレテ地ニ伏レテハ其家ヲ共トシ天ノ蒼生ニ附與シタル幸福ヲ共有分付ス可キモノタルヲ知ル可キ也。

基督教ヲ信スルノ人ニ於テモ日本帝國ニ布教ヲ施サレトスルニ膺リ何ナル情疑ヲ抱クヲ須ヒサル也。苟クモ羅馬基督教徒ニ於テ仁愛ノ主義ニ背棄スルニ非ラサレハ政府ハ決シテ之レニ交渉セサル可ク而シテ仁慈ノ道ヲ布教スルハ基督教會ノ一大主目ト考ヘラル也。是ヲ以テ一國人民ノ志行ニ於テ明瞭タル國體ノ基礎ヲシテ外教ノ為ニ妨害セラレトスルニ非ラサレハ到ル處必ラス之ヲ度外ニ付ス可キ也。凡ソ一

國ノ人民法教上ニ就キ一端ヲ開クアルハ法教ノ主
義相合ハサルヨリ憤怒ヲ来タス者少ナフレテ多クハ
政治上ニ關係シ此教旨ヲ行フハ如何ナル事物ヲ生
シ来ツル可キ乎随ツテ一黨ノ敗類レテ他教ノ推ヲ占
ムルニ至ツテハ如何ナル危険ヲ生ス可キ乎ノ想像ニ
基クモノ也是故ニ人民間ニ於テ法教論ノ破裂ヲ生ス
ルヤ到底敬神上ノ意思ニ異ニスルニ由ルニ非ラスレ
テ唯ニ政治交際上ニ關係シ今ニ新教ヲ採擇スルハ
政治上如何ナル愛遷ヲ生ス可キヤノ一事ニ過キス然
レニ新教ナルモノ無害ニシテ政治交際上ニ交渉レ何
タル關係ヲ及ボサ、ル一一度ニ世人ニ知ラル、ニ至
ラハ恐ラクハ一二熱中信者ヲ除ク、外新教ヲ猜疑拒
絶スルモノ無キニ至ル可シ羅馬ノ人民ハ自己ノ首府

千七百四十

ヲ以テ世界ノ大都會ト為シタルカ故ニ其掠奪セシ邦
國ノ諸神ヲ其ノ首府ニ集メタリシト雖モ基督教會中
羅馬人民ノ專横ヲ拒絶スルノ一主義相ヒ行ハル、ニ
至ツテヤカヲ極メテ之レニ抵抗シタリ歐洲中古思想
上基督教ノ專權ヲ占メ擅制政治ノ紐立ト并ヒ行ハレ
レ社會ノ狀況ハ大率^ス斯クノ如クナリキ見ヨ新教ノ一
度ニ世ニ出テシヨリ法門ノ戦争ヲ醸成シタリシハ其
據ル処^ロ、^ス氏^カルウイ^レカ法教上論述スル主義ニ
於テ各自獨立ノ萌芽ヲ含ミ之レカ為メニ羅馬^旧教ノ
主義ニ基キタル政体上ニ禍害ヲ及サセントスルノ患
アルニ因ルニ外ナラサリシ也古來日本支那及ヒ米國
ニ發生シタル法門ノ争論タルモ亦ク必ラス敬神上ノ
熱心ニ基クモノアルヲ見ス而シテ偶ニ無學愚蒙ナル熱

教案ノ関涉スルカ如キアルモ要スルニ争鬪ノ手足ニ
供セラル、ノミニシテ其ノ因テ起レル原因ニハアラ
ナル也觀フニ一國ノ施政者タルモノ人民中政府ノ利
害ニ交渉ス可キ新教ヲ播布セシムルハ一身ノ地位
危険ニ属クセントスルノ恐レアルカ故ニ假令如何ナ
ル損害ヲ来タス可キモ亦ク之レヲ誅劊ヒレト決意シ
是ニ於テ乎其ノ曾テ朋友視セル教徒ノ熱心ヲ鼓舞シ
其敵視セル教會ヲ拒絶スルノ具タラシムル也往々清
國ニ於テ基督教ヲ殘待ヒレモ唯ニ政治上ノ主意ニ帰
シ亦ク一千七百年代ニ於テ日本ノ勇武ニ長ク政治法
律ニ夷各ナル徳川家康カ法章ニ掲載スル如ク旧教ヲ
嚴禁シタルモ亦タ全ク其他ノ理由アルニ非ササリレ
ナリ今日吾黨カ現ニ目撃セル米國ニ於テ一二夷各ノ

千六百五

士羅馬旧教ヲ敵視セレハ僧侶等世上ノ教育上ニ交渉
レ善カラサルノ影響ヲ及ホサントスルカ為メタルニ
外ナラハ是故ニ基督教ノ宜教師米國ニ於ルカ如ク教
育上ニ交渉セントスルノ意志示サハ日本ニ於ルモ亦
ク禁絶セラントスルノ恐レナキニ非ラス然レハ宜
教師等特リ法教上ニノミ從事シ他ニ交渉スル勿クシ
ハ必ラスヤ布教ヲ妨碍トラルヲ勿カル可レ是故ニ其
他ノ事項ノミナラス法教上ニ関スル日本ノ他ノ
亜細亞人民ニ超俊スル教等ナルヲ見ル也而シテ徳川
家康ノ禁令ハ已ニ廢棄ニ属クシタルノミナラス政府
ノ法教放縱ノ議ヲ聞キ人民大ニ之レヲ稱道ス蓋シ余
カ一千八百七十年以來世ニ公ニセル書冊ニ記述スル
如ク清國ハ未ダ斯クノ如キ開度ニ達セザル也

Handwritten text in Arabic script, appearing as bleed-through from the reverse side of the page. The text is faint and difficult to decipher.

Handwritten text in Arabic script, appearing as bleed-through from the reverse side of the page. The text is faint and difficult to decipher.

Handwritten text in red ink, possibly a page number or a section header, located on the right edge of the page.

